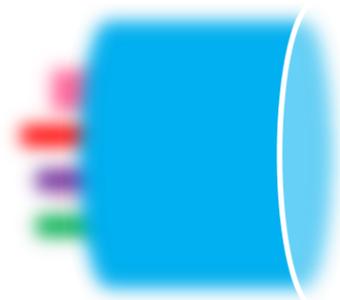
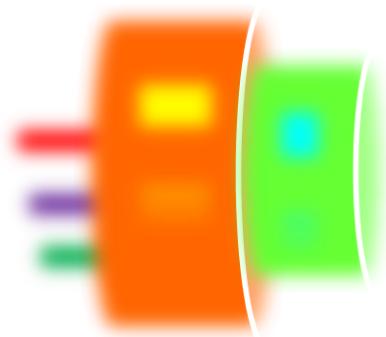


キーワードから考えることばの学習(18)

～動詞について考える I～



言語・学習指導室  
葛西ことばのテーブル  
三好純太

# 動詞とは何か

事物の動作・作用・状態・存在  
などを表す語

「大辞泉」より

「食べる」「する」「響く」

「取り出す」「そびえる」「ある」etc.

# 今回のテーマを選んだ理由

## 発達障害の子どもの 動詞の習得の難しさ

ことばのテーブルに来ている子どもは、  
さまざまな動詞の問題を抱えている

さまざまな問題とは・・・

動詞の語彙が増えない

動詞の使い方が不適切

動詞を限られた表現でしか使えない

動詞を正しく書けない

などなど

## 動詞における問題（発話の例）

飛行機、ブーン → 「飛ぶ」が幼児語

おちゃ、食べた → 「飲んだ」の誤り

ケーキをあげる → 「もらう」の誤り

花を割った → 「折った」の誤り

手をあらない → 「あらわない」の誤り

学校にき(来)ない → 「こ(来)ない」の誤り

## 動詞における問題例(理解)

「ジャブジャブ」という幼児語や身振りがないと「洗う」が理解できない

「紙を折って」という指示で 紙を切る

「Aさんがくれた」ということばを

「Aさんが貰った」と捉えてしまう

「行けない」と言われたのを

「行かない」(拒否)と捉えてしまう

動詞の習得を援助するには

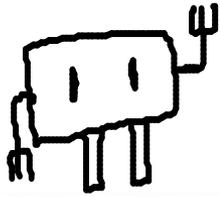
どのような働きかけが  
有効なのだろうか

生活の中で

- 会話の工夫
- 場面や状況の工夫

学習として

- どんな動詞を学ぶか
- どんな順序で学ぶか
- どんな教材・課題か



# 今回のキーワード

絵カード

コア

助動詞

コネクター

「何か × 何でも」の学び

# 今回のお話しの流れ図

日本語の動詞の基礎知識

日本語の動詞の種類・特徴

動詞の発達

動詞の学習

初期的学習

発展的学習

動詞の活用と助動詞

学びについての考え

# 日本語の動詞の基礎知識

# 日本語の動詞の特徴

●すべてウ列音で終わる

食べる

taberuu

行く

ikuu

飲む

nomuu

●文の中で最後に位置する

お母さん が ケーキ を 買う

英語なら



Mom buys the cake

\* 主語の次に動詞

# 日本語の動詞の特徴

## ●活用がある

助動詞や助詞と繋がる場合に、語形が変わる

五段活用

行く

行かない	行こう
行きます	
行く	
行けば	
行け	

# 日本語の動詞の現状

● 辞書に載る語だけで1万語以上

「わがねる」 \* たわめ曲げて輪にする

● 日々、増え続けている

「ディスる」 \* 侮辱する \* 英語のdisrespect から



消えて行くものもあり

では、日常生活の中では、  
どのような動詞が多いのだろうか？

生活場面での動作を言語化すると  
どうなるかを調べてみた

駅から、ことばのテーブルの部屋に  
入るまでの間を、動詞を中心に  
ことばにしてみると・・・

題して、「駅から部屋に入るまで」

# 「駅から部屋に入るまで」

駅から、ことばのテーブルの部屋に行く。  
今日は、靴を履いて、帽子を被り、服を着て、鞆を持っている。その格好で歩く。  
花壇に咲いている花を見る。時間を確認する。  
交差点で立ち止まる。信号を待つ。  
信号が変わる。また歩き出す。前から来た人を避ける。  
部屋のあるビルに近づく。右に曲がる。段差を上がる。エレベーターの前に立つ。ボタンを押す。ドアが開く。中に入る…………

# 「駅から部屋に入るまで」に出て来た動詞

行く 履く 着る 被る 持つ 歩く 咲く

見る 確認する 止まる 待つ 変わる

歩き出す 来る 避ける ある 近づく

上がる 曲がる 立つ 押す 待つ ひらく

入る 押す 閉める 閉まる 上がる

止まる あく 出る 立つ 取り出す 入れる

回す あく 回す 押す あける 入る

# 「駅から部屋に入るまで」における 動詞の特徴

入る・出る、あける・閉める、入れる・出す  
などが頻繁に出て来る

★食事や入浴などの場面でも、同じように動作を言語化してみたが、やはり、これら、モノの出し入れや開閉の動詞が、一番多く登場した

考えてみれば、世界は、結局のところ、  
さまざまな内と外で出来ている

だから、これらの動詞が多いのは当然かもしれない

# 動詞の発達

# ことばの発達

10ヶ月

1才

1才半

2才

4才

5才

始語表出 → 2語文表出 → 多語文表出 → 可逆文理解

★喃語活発化

語彙の爆発的増加

★構音完成

名詞

初期50語

コレナニ?期

事物名称  
が中心

名詞急増

動詞

動詞増加

※意味理解が  
不完全なもの  
が多い

動詞急増

動詞の即時  
マッピング  
が可能に

# 動詞の発達の特徴

- ことばの発達の初期段階において、
- 少なくとも日本語においては、

動詞は名詞に比べて、  
習得が遅れる

動詞は名詞よりも習得が難しい

そして..

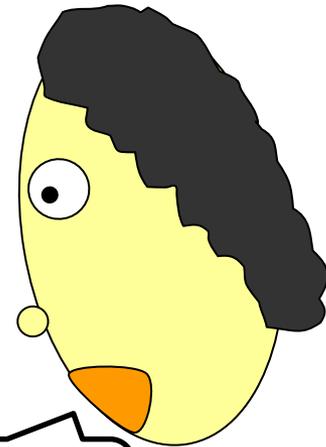
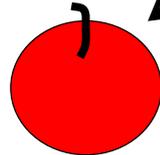
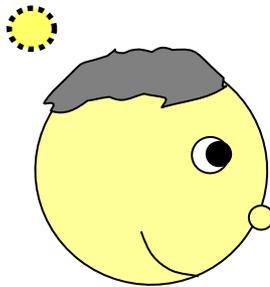
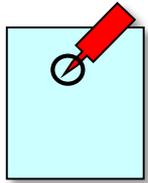


- \* 文法の発達とともに動詞の語彙は急増する

# 名詞の習得

「りんご」って  
いうんだな..

三項関係



りんご

即時マッピング

!モノの名前は、たった1回の経験で学習される



「制約」という“思い込み”により可能となる

ex. 言われた名前は、そのモノの形全体をさしている

しかし動詞は・・・

名詞のようにすぐには覚えられない

即時マッピングできない



母親からの子どもへの言葉かけは、  
場面によっては、名詞より動詞の方が多い  
ことがわかっている(小椋の研究より)



ほら走ってるよー



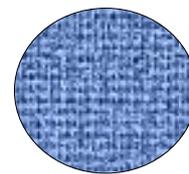
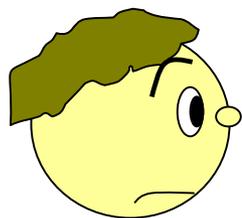
それでもなぜ

動詞は習得しづらいのか

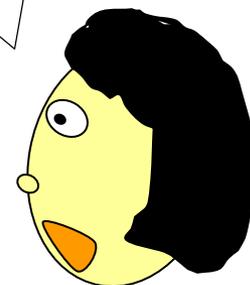
# 動詞習得が難しい理由

- 動詞は変化し消えるもの
- 動詞は境目があいまい
- 動詞は色々な名詞とくっつく
- 動詞には視座で変わるものがある
- 動詞は心の動きを表すものがある
- 動詞は形が変わる

# ● 動詞は変化し消えるもの



ボール、  
転がった



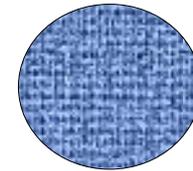
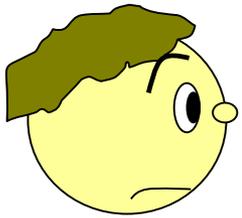
「転がる」は、最初は速く、次第にゆっくり。

そして最後は止まり、「転がる」は消える

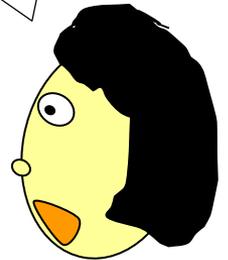


モノ(名詞)は、常にそこに、あり続ける

# ● 動詞は境い目があいまい



ボール、  
転がった



止まる

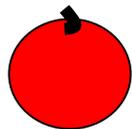
転がる

はずむ

落ちる

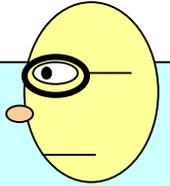


どの動きまでが「転がる」？ 境い目がわかりにくい



モノ(名詞)は、同じ形状を保つ

# 生活の中の動詞の学習①



オノマトペと身振りを  
会話の中で豊富に使おう

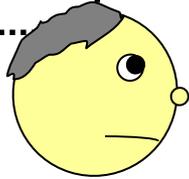
\* オノマトペ = 擬音語・擬態語

☞ 第17回学習会「プロソディを考える」

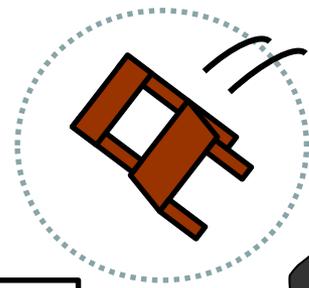
オノマトペや身振りが、  
動詞理解の手がかりになる

たとえば..

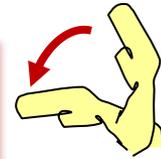
たおれる？



イスがたおれたの



たおれる身振り



してる！



バタンってたおれたの

オノマトペ



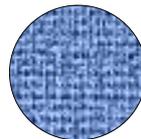
バタン、ってなることを、「たおれる」っていうのか..

オノマトペと身振りが、動詞の理解を進める

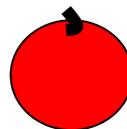
# ● 動詞は、色々な名詞とつながる



転がる



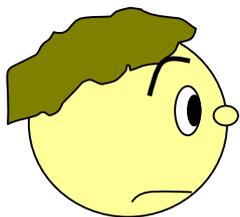
ボール、転がった



リンゴ、転がった

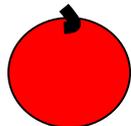


鉛筆、転がった



最初に認識した状況＝「転がる」のは「ボール」

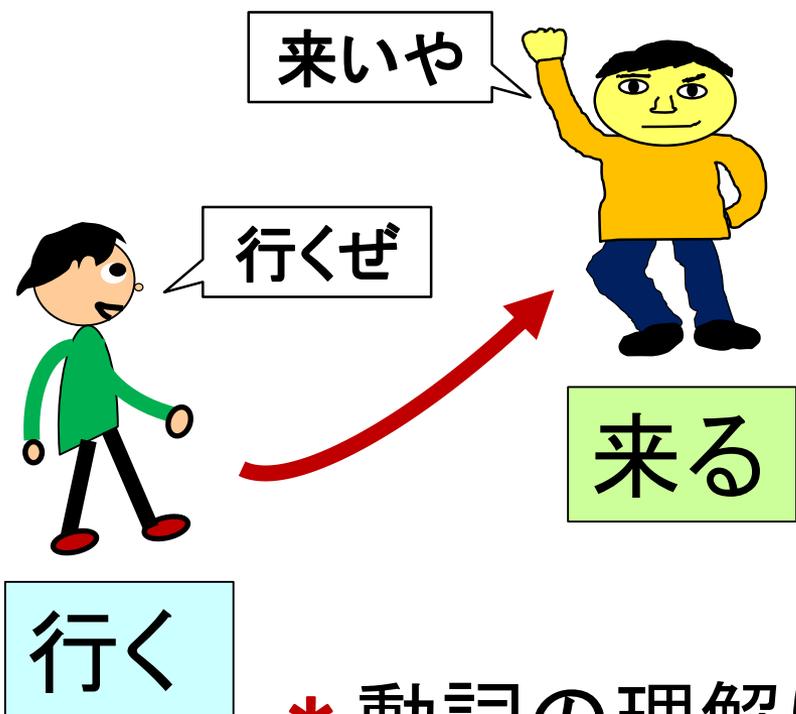
という関係が崩れて行く あれ？ボールじゃないのに・・・



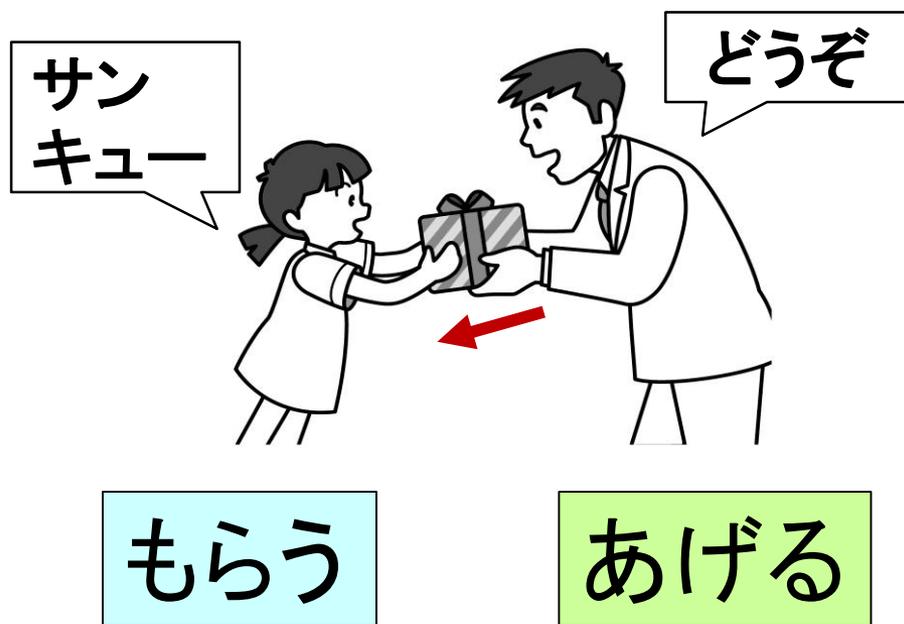
モノ(名詞)は？

# ● 動詞には視座で変わるものがある

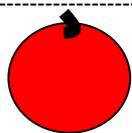
行くー来る



あげるーもらう

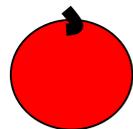
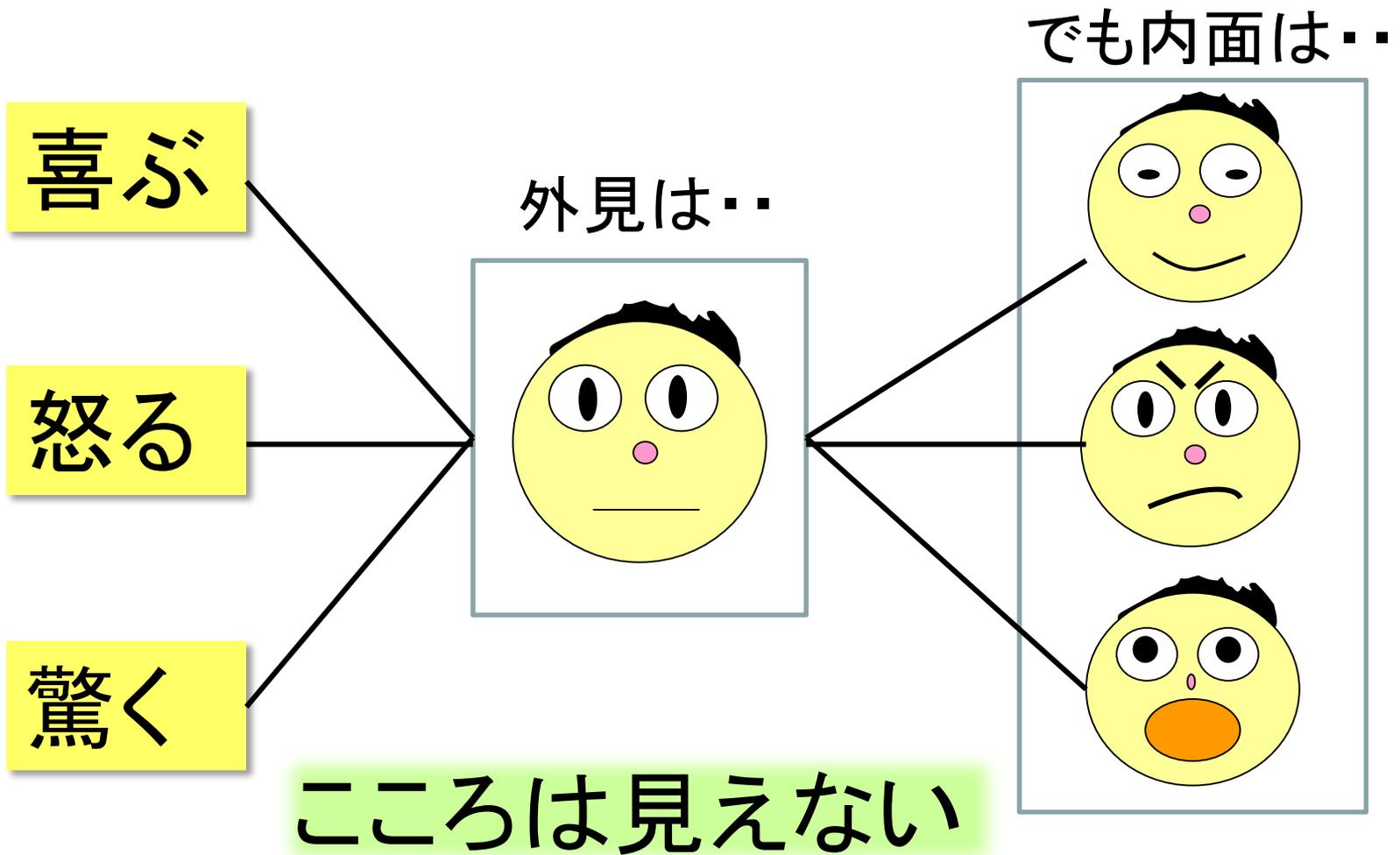


\* 動詞の理解には視座の確立が必要



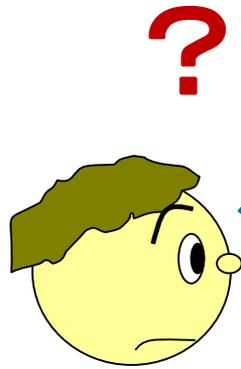
モノ(名詞)は、どこから見ても同じ

# ● 動詞は心の動きを表すものがある



モノ(名詞)は、見える

# ● 動詞は形が変わる

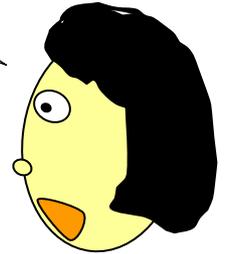


「行く」  
五段活用

いくよー

いってね

いかない

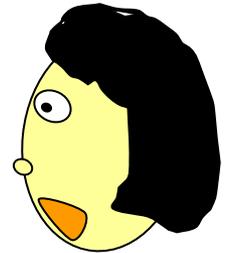


「来る」  
サ変動詞

くるよ

きたね

こない



語尾変化と音便化によって  
同じ語と認識しづらい

● 名詞は、ことばの  
形が変わらない

# 動詞は難しい

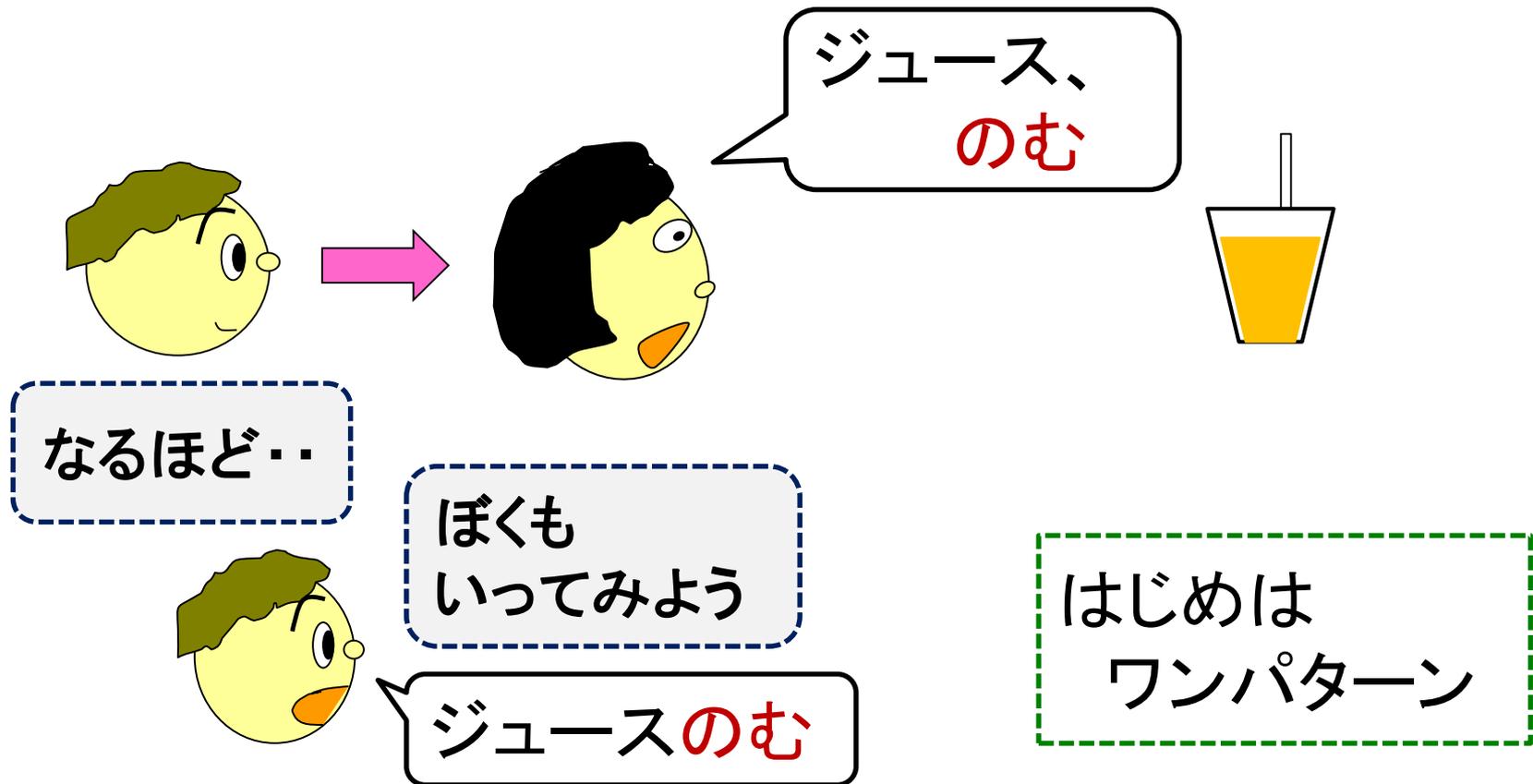
動詞が指し示すものが、  
理解できるようにするためには

動詞が使われる場面に何度も触れ

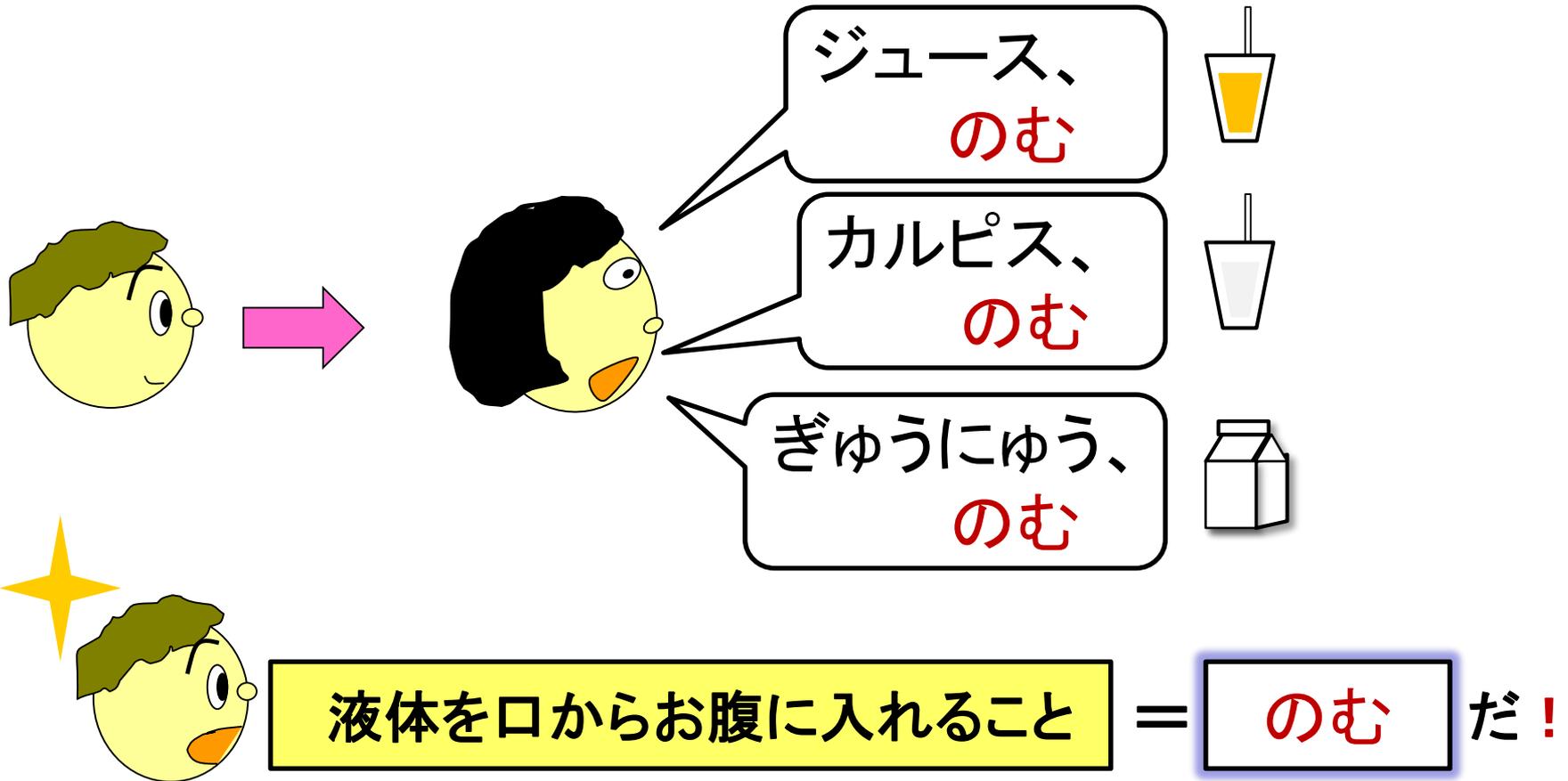
その繰り返しの中で、動詞の意味と  
文法を洞察して行かなければならない

だから動詞の習得は、

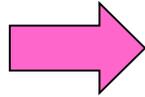
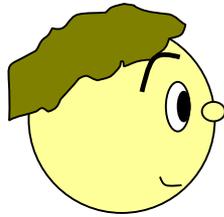
形と意味の重ね合わせ が必要



# 形と意味の重ね合わせ



# 形と意味の重ね合わせ



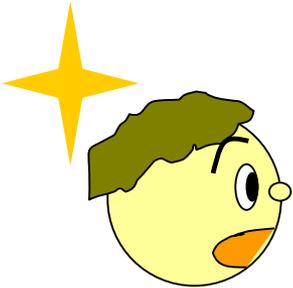
ジュース、  
の**み**たいね



カルピス、  
の**も**うか



ぎゅうにゅう、  
の**ん**だよ



どれもみんな

のむ

だ！

絵カード

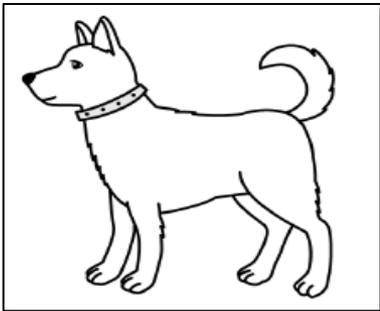
# 動詞の学習教材①

ことばのテーブル 言語訓練カード第1集

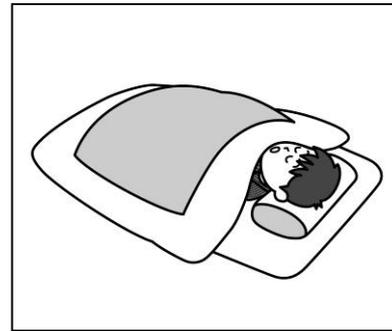
## 名詞・動詞150絵カード

日常生活の基本語：150語の絵カード

● 名詞100語（事物絵）



● 動詞 50語（動作絵）



言語学習の初期段階の教材として製作

# 名詞・動詞150絵カードの動詞リスト

・寝る	・上がる	・買う	・乗る	・干す
・食べる	・開ける	・かける	・入る	・掘る
・走る	・あげる	・切る1	・飛ぶ	・磨く
・飲む	・もらう	・切る2	・測る	・見る
・笑う	・洗う	・蹴る	・履く	・読む
・書く	・打つ	・こぼす	・運ぶ	・渡る
・描く	・押す1	・転ぶ	・引く	・落ちる
・着る	・押す2	・捨てる	・弾く	・壊れる
・座る	・泳ぐ	・叩く	・拭く	・滑る
・投げる	・降りる	・泣く	・吹く	・降る

動詞50語(※あげる・もらうは同一カード)

しかし・・・この絵カード集には

生活基本語と考えられる

多くの動詞が入っていない

持つ

出る

帰る

怒る

来る

閉める

歩く

ひらく

聞く

脱ぐ

取る

引く

話す

考える

つける

などなど

なぜ、これらの語が、入っていないか



絵で表しにくいから

絵にしにくい動詞をタイプ分けすると

出る・入る・来る・開ける

方向を持つ動詞

歩く・待つ・見る・聞く

状態を表す動詞

脱ぐ・着る・乗る・降りる

反対語のある動詞

喜ぶ・怒る・驚く

心理を表す動詞

取り出す・歩き出す

複合動詞

# なぜこれらの動詞が絵カードにないか

方向を  
持つ動詞

状態を  
表す動詞

反対語の  
ある動詞

心理の動詞

動作の方向や、時間の推移、  
事物の状態、心の動き

これらのものは

**！ 静止した絵で表現しづらい**

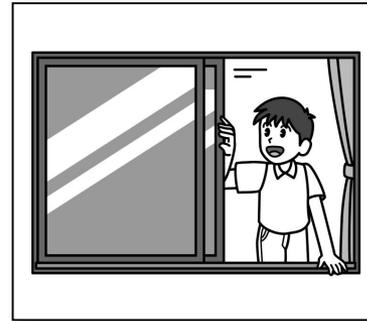
150カードに採り上げているものでも・・・

着る



着てるの？  
脱いでるの？

開ける



開けてるの  
閉めてるの？

動詞を、絵で表現するには限界がある  
そしてそれは・・・

子どもが生活の中で、  
動詞の意味を推測する難しさ

と、重なっている ☞ 「動詞習得が難しい理由」

また、絵で表現された動作は

- 動作の中での一場面を切り取ったもの
- 特定の状況だけを表したもの

だから、子どもが、絵カードによる学習で、その絵を見て動詞が言えたり、絵を選択できるようになっても、日常会話で使えるとは限らない

その絵に、ことばのラベルを貼っただけ で

生きたことばの習得にはなっていない ことも多い  
では動詞の絵カードに学習意義はないのだろうか

意義はいろいろある

# 絵カードによる動詞学習の意義①

## 動詞の意味する概念と記号の認識

動詞を習得するには、さまざまな情報の中から  
その動作や行為を取り出す必要がある

そのためには

動詞の意味する動作に注目し、

そしてその動作を主題化しなければならない

主題意識の必要性

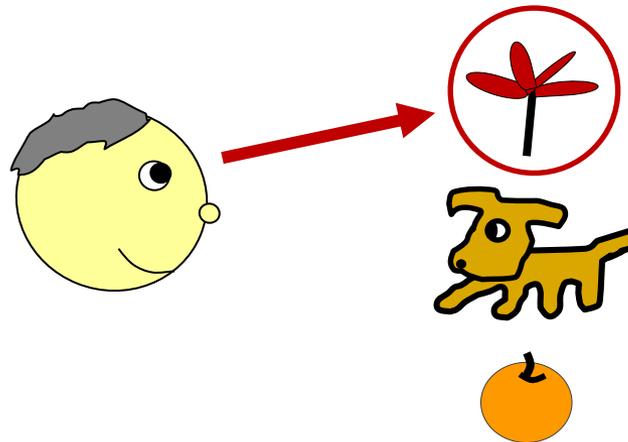
しかし・・・

発達障害の子どもは  
主題意識を持つのが苦手

主題意識とは

さまざまなものから注目するものを絞り込み  
そして、それに注目しつづける意識

いまは  
これだ！



動作を絵にして示し

それを言語化(名づけ)することは

●動作の分節化(取り出し)・焦点化 を促し

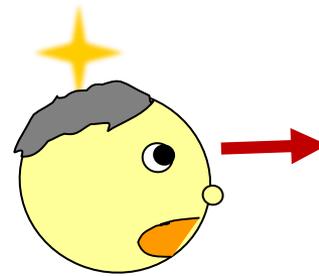
●その概念に、ことばがあること

に気づかせる効果がある

靴や男の子や手ではなく

●(走ること)がテーマだ!

●「走る」っていうんだ!



# 動作絵による動詞学習の意義②

## 意図への気づき

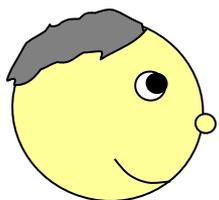
動詞絵カードには、さまざまな**意図**がある

それらの意図に、学習を通して気づくことに  
意義がある



# 意図①：課題・教材的意図

なんかやってるな



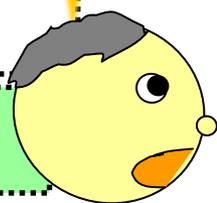
絵を描いた  
人の意図

洗ってる所  
って解って!



先生も一生懸命  
同じことしてるぞ

バシャバシャか!



ほら見て



絵を示した  
人の意図

ここ(動作)に気づいて主題を置いてほしい!

共通認識の育成

👉第9回学習会「文法を考える」

でも  
これは

名詞(事物絵)にも  
共通するもの

## 意図②: 動作者の意図

動詞の絵カードには、その中に  
**複数の動作をする人**がいる



その複数の動作者の  
意図に気づくことに意義がある

# 複数の動作主と、その意図とは



● 描かれている人の意図

\* この子、おやつ食べるのかな..

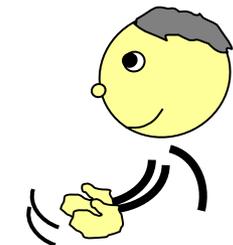
● 他者の意図

\* 料理の前に、ママもやってるな



● 自分の意図

\* 外から帰ったら、僕もしてるよ!



# 動詞カードの絵は、記号=ことば

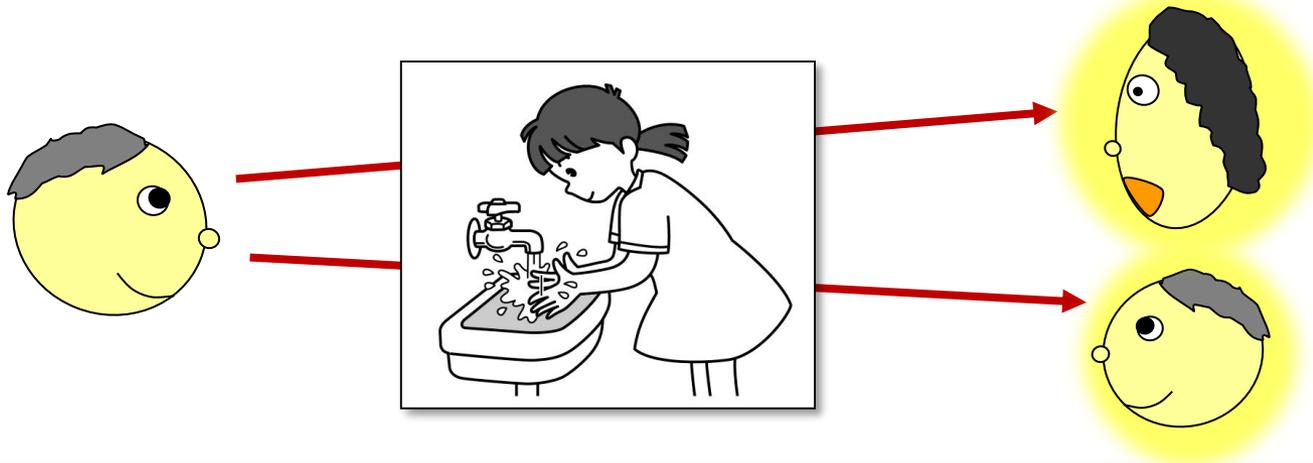


みんなと共有する1枚の絵から

一人一人が、それぞれの経験や  
イメージを思い浮かべなければならない

だから動作絵は

こころへの通路 とも言える



絵を通して、自分や他者につながり



自分や他者の意図を  
感じるすることができる

では、なぜ

色々な意図に気づくことが  
動詞の学習に大切なのだろうか

それは・・・

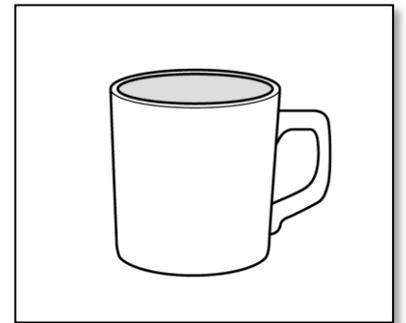
動詞の習得は、  
人間の意図に対する洞察を  
基盤としているから

# 動詞には意図がある

食べるも、寝るも、叩くも  
飲むも、走るも…

名詞との違い

意図を持ってすること



動詞の背景には  
意図があることを  
知っていなければならない

だから **動詞習得のためには**

**名詞よりも進んだ心の理解が必要**

! 名詞の習得にも心がある

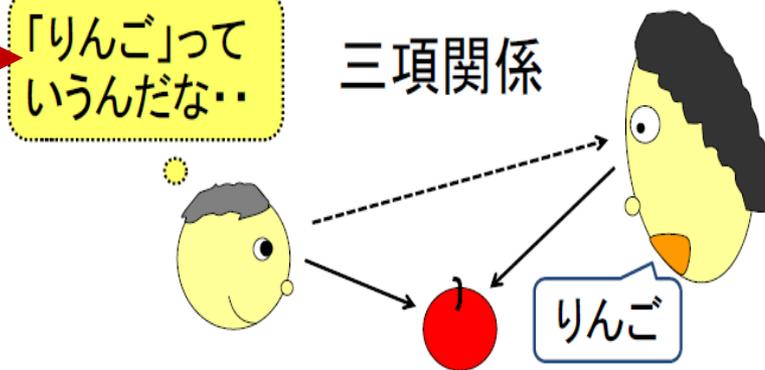
お母さんも同じものが見えてるんだ!

名詞の習得は他者の心への気づきでもある

そして

名詞習得に必要な心の理解は

名詞の習得

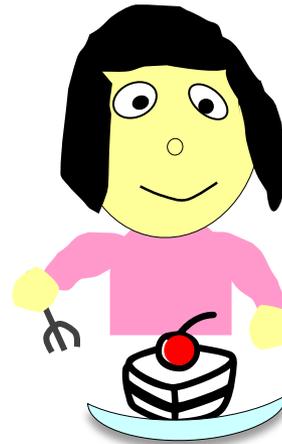
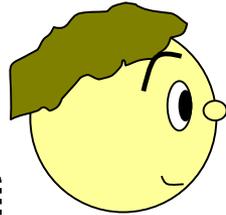


その人は認識している

# では、動詞の場合は

食べたいんだ

食べようと  
しているんだ



さあ、  
食べるぞー

動詞習得に、  
必要な心の理解は



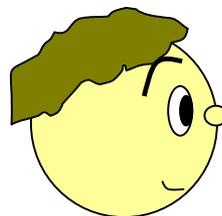
その人は  
そうしようと  
している

他者の意図

それから・・・

食べたい・・・

食べよう！



自分は  
そうしようとする

自分の意図

他者と自分の意図に気づくことを通して  
生活の中で多くの動詞を学んで行く

動詞を絵で学ぶことは解りにくいし難しい

でも..

絵を記号として理解し、それを自分や他者に置き換えられるようになることが重要

その心の洞察への深まりが



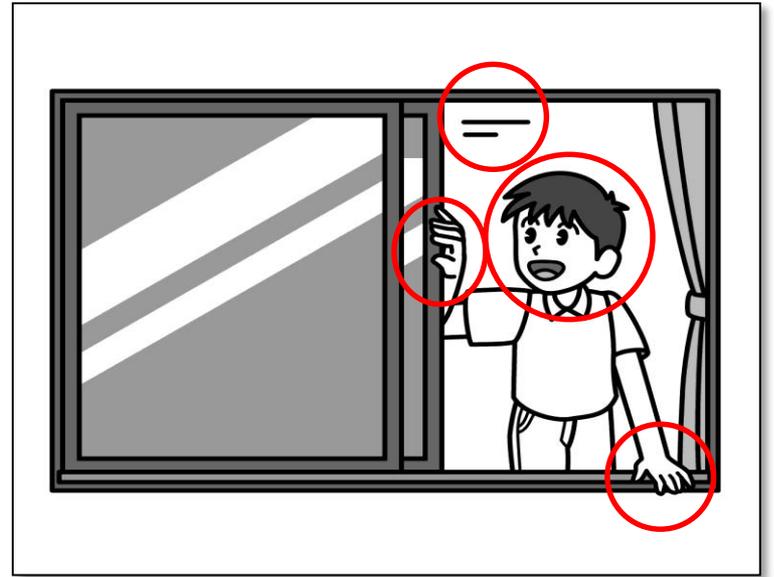
意図のことばである

動詞の習得の糧になる

そう考えると…

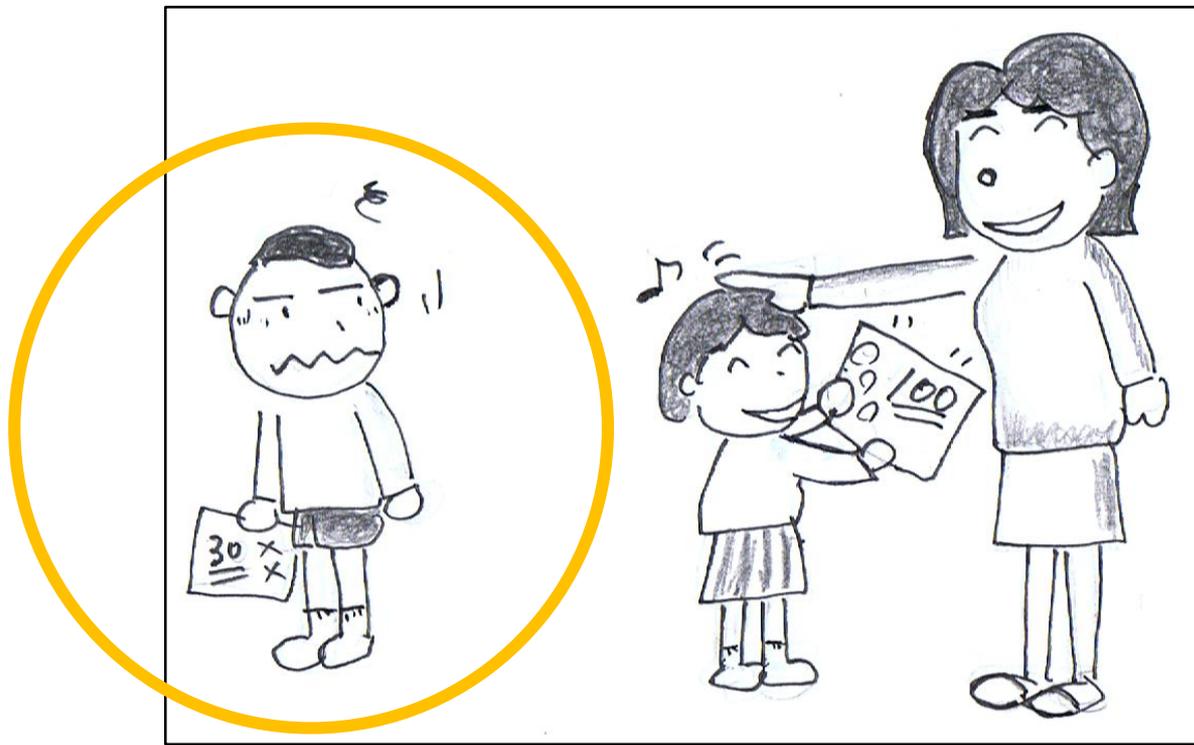
わかりにくい動作絵にも  
意義がある

細かい表現にも  
気づいて欲しい…



そして

もっと難しい動詞を、絵にして  
示すことにも意義がある



ねたむ

絵から状況や文脈を読み取る

でも、動詞の学習はまず基本的なものから

ということで、絵カードなども素材として

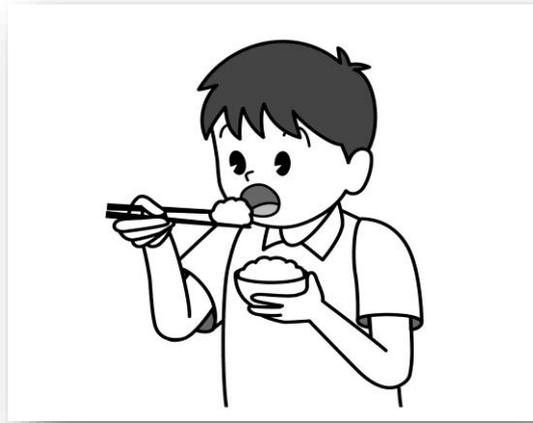
動詞の初期学習は  
まず、どんなことばから始めるか



動詞の学習は、  
大きな動詞から始める

# 大きな動詞

## 食べる



「食べる」という  
行為を細分化  
すれば..

噛む・飲み込む・吸う・なめる・持つ  
つかむ・入れる・味わう etc.

さまざまな動詞が出て来るが

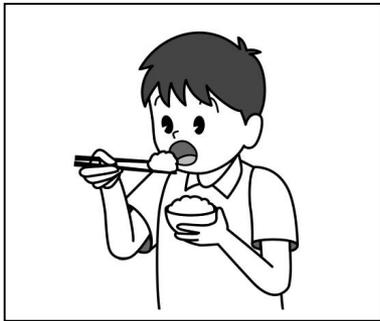
それらをすべてまとめて **食べる**

# 大きな動詞とは

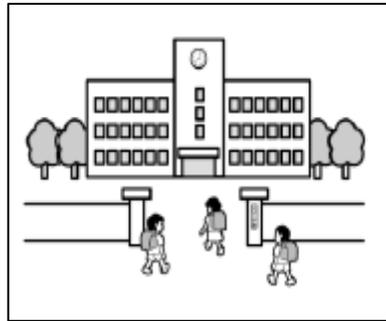
人が大きな目的・意図を持って行う、

生活のスキript(系列行為)の  
タイトルとなるような動詞

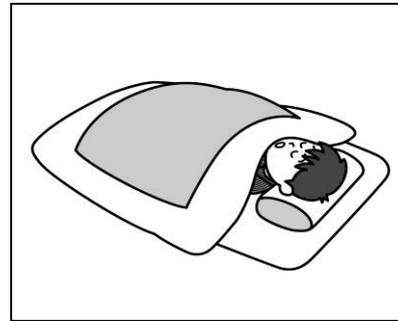
食べる



行く



寝る



書く



これらの「大きな動詞」は

まとまりの強い名詞的な動詞

と言えるかもしれない

では、生活と学習の中で、

大きな動詞を覚えたら・・・

もっと意味するところの難しい

動詞はどのように覚えるのだろうか

また、どのように

学習して行けばいいのだろうか

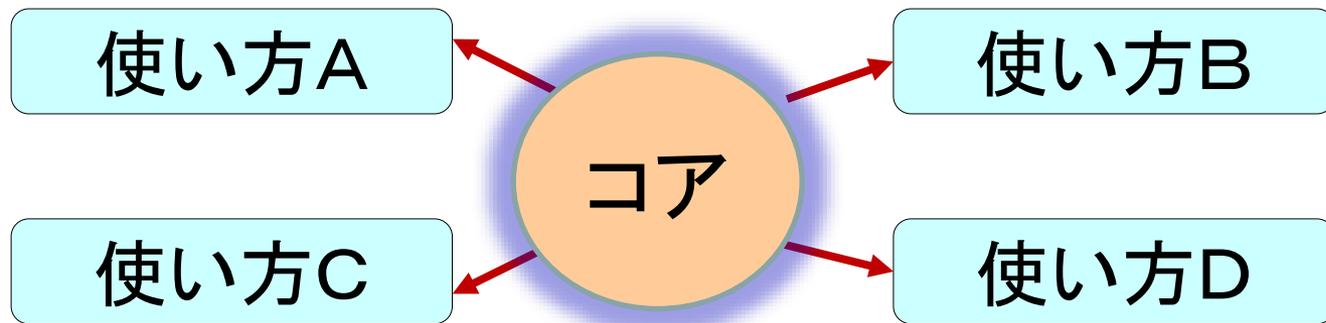
コア

# 「コア」とは何か

それぞれの単語における本質的な意味

※主に英語教育の中で提唱されている用語・理論

名詞にも動詞にも助詞にも  
コアがあると言われる



コアから様々な使い方が派生して行く

# 名詞のコア

英語の **game**

- 遊び、ゲーム
- 試合、競技
- 猟の獲物
- 計略

駆け引きを楽しむ



- \* 競技 ・ 野球やバスケット **game**
- ・ 相撲やボクシング **match**

「Eゲイト英和辞典」より

しかし、コアの考え方は・・・

名詞よりも、動詞において、  
よりフィットする

動詞は、名詞よりもさらに、  
ひとつの単語が、さまざまな意味に  
使われることが多い

そしてそれらの多様な意味は、  
ひとつのコアから派生している

たとえば

## 英語の動詞のコア

break

(力を加えて)  
形・流れをこわす

\* break a window 窓を破る

\* break a horse 馬を調教する

\* heart break 失恋する

\* coffee break 休憩する

田中茂範他編「Eーゲイト英和辞典」より

# 日本語の動詞のコア

つかむ

あるものを放すまいと、手を伸ばして  
手指全部を曲げるようにして、掌との間  
に握りしめしっかりと、とらえる

“めったに手にできない事物を自分のものにする”  
という意味が加わる場合も多い



「日本語表現辞典」より

獲物をつかむ

情報をつかむ

このコアが認識されていないと・・・

## 動詞の使い方の 誤りとなつてあらわれる

### 誤りの例

- \* 虫を握った（実際は「つかんだ」）
- \* 玉を切った（実際は「割った」）
- \* アイスを噛んだ（実際は「かじった」）

発達障害の子どもとの会話で、  
語義（語の意味）のズレや不正確さを  
感じることは多い

とくに

動詞や形容詞、副詞

語義は、本来、日常場面で  
豊富なことばの刺激を受け  
自然に習得して行くもの

では

動詞のコアは、  
日常のコミュニケーションの中では  
どのように認識されていくのだろうか



その動詞＝動作の場面に繰り返し触れ

そして

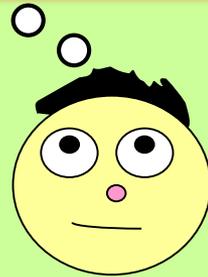
その状況を表すことばに  
触れることによって、洞察されて行く

たとえば 「破く」だったら・・・

テストを破く

ママが破く

怒って破く



手で破く

ビリビリと破く

半分に破く

これらの状況と、  
そのことばの表現の重ね合わせによって



動詞のコアが洞察されて行く

## 動詞「破く」のコア

薄っぺらくて、柔らかいものを、  
(主に)手で、千切って、ダメにする

そして今度は、そのコアを踏まえて

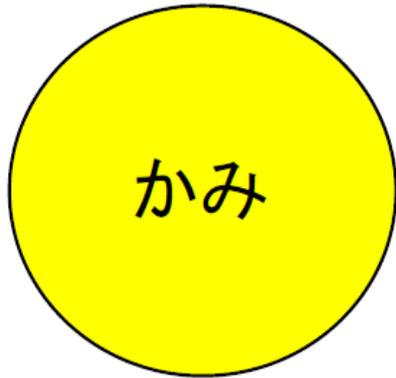
新しい場面に、ことばを当てはめて行く



リョウ君がカード、**破いた**の

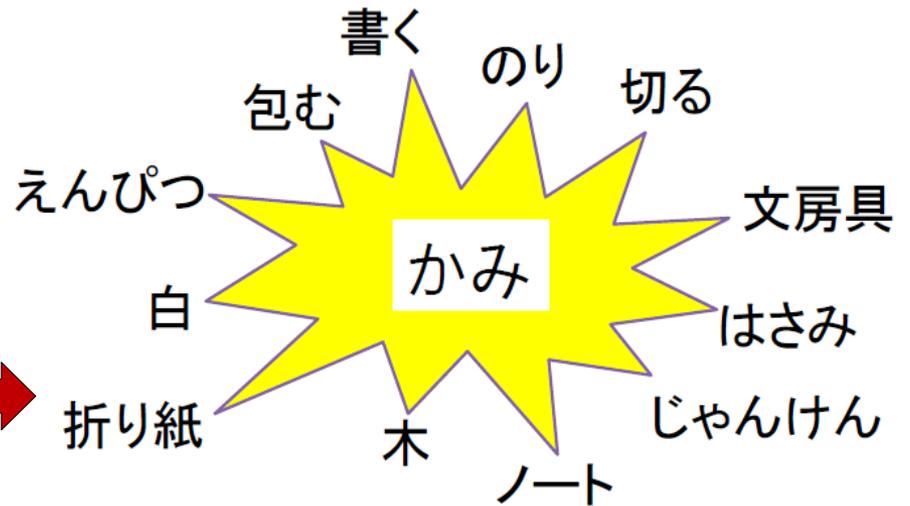
以前、文法をテーマとした学習会で  
文法を導くものとして、いろいろなことばや知識と  
つながり合った**ギザギザことば**を紹介したが...

ツルツルことば



に

ギザギザことば

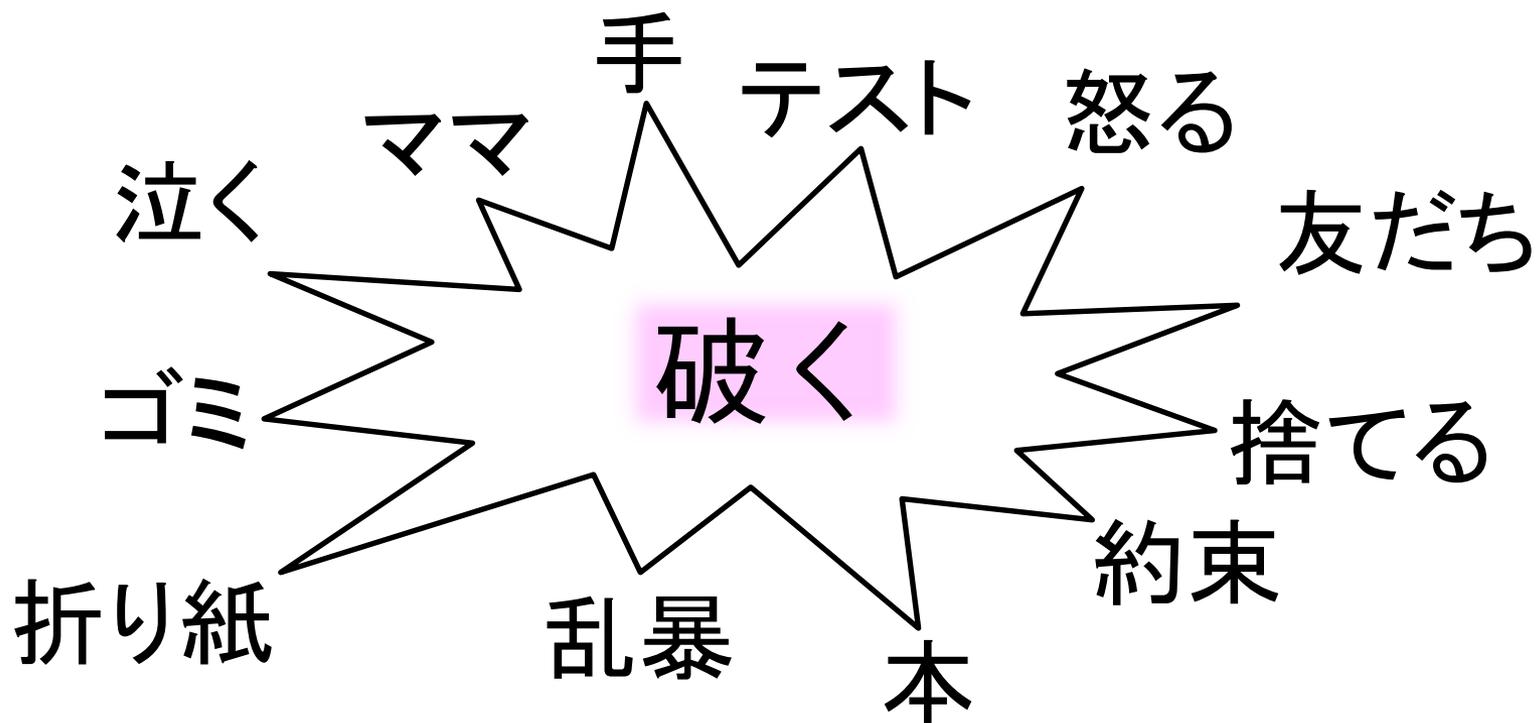


ことばのネットワークの形成

第9回学習会  
「文法について考える」より

動詞においても、色々なことばと繋がりが合った

ギザギザことば になることが



コア獲得に繋がる

では動詞のギザギザことばを育てるためには  
生活や学習でどんなことが必要だろうか

## 生活の中の動詞の学習②

● 経験とことばの表現に触れる機会を増やす

貼る 糊で貼る、ぴったり貼る、壁に貼る・・・

● 事物の連想能力や関係づけの力を育てる

懐中  
電灯



台風

コアとギザギザことばを  
獲得するための学習課題

# 動詞の学習教材②

2つのことばを  
使って文を作ろう

関連づけの  
動詞学習

動詞の想起と  
妥当性を重視

ふたつのことばをつかって文を作ろう

(れい)

ボタン

ゆび

ゆびで ボタンを おす。

① ねんがじょう

ともだち

ともだちにねんがじょうを出す

②

ろうか

ジュース

③

ハンカチ

あせ

2つのことばを使って文を作ろう

単語選択型

関連性の高い名詞を選択して文を作る

ふたつのことばをつかって文を作ろう1

\* のなかから、ことばを2つ、つかって、文を作ろう

おとうさん	ほうちょう	くるま
ほん	せんせい	だいこん

(れい) おとうさん      くるま

おとうさんが くるまに のる。

①      せんせい      ほん

せんせいが ほんを よむ

②      ほうちょう      だいこん

ほうちょうで だいこんを きる

ほうちょうで、だいこんを、切る

大根

大根を食べる

大根を切る

大根ができる

大根をぬく

ほうちょう

ほうちょうを買う

ほうちょうを使う

ほうちょうで切る

ほうちょうがある

共通の動詞「切る」を選択

大根

ほうちょう

大根を切る

ほうちょうで切る

動作の対象

手段

だいこんを ほうちょうで 切る

！ 動詞を正しく選んだ時点で  
二つの言葉の関係性が把握されている

# 動詞は文の要

お母さん

包丁

りんご

切る

単語の関係性を統べるもの

動詞が広がる



文と文法を導く

# 動詞の学習教材③

## 共起語想起問題

\* 共起とは、ある単語といっしょに、特定の単語が頻度多く使われること

□ 選挙 ⇄ 投票

□ 新聞 ⇄ 配る

● 動詞と共起する名詞の想起問題

● 名詞と共起する動詞の想起問題

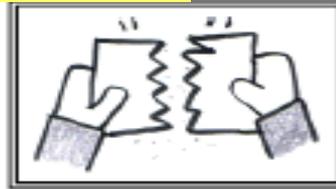
● 助詞 + 動詞と共起する名詞の想起問題

# ● 動詞と共起する名詞の想起問題

「破く」を使うものを考えよう

れい  
例

ノート<sup>を</sup>、破く<sup>やぶ</sup>



① **テスト** を、破く<sup>やぶ</sup>

② **本** を、破く<sup>やぶ</sup>

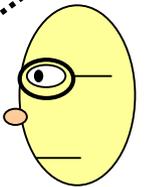
③ **シャツ** を、破く<sup>やぶ</sup>

④ **包み** を、破く<sup>やぶ</sup>

⑤ **障子** を、破く<sup>やぶ</sup>

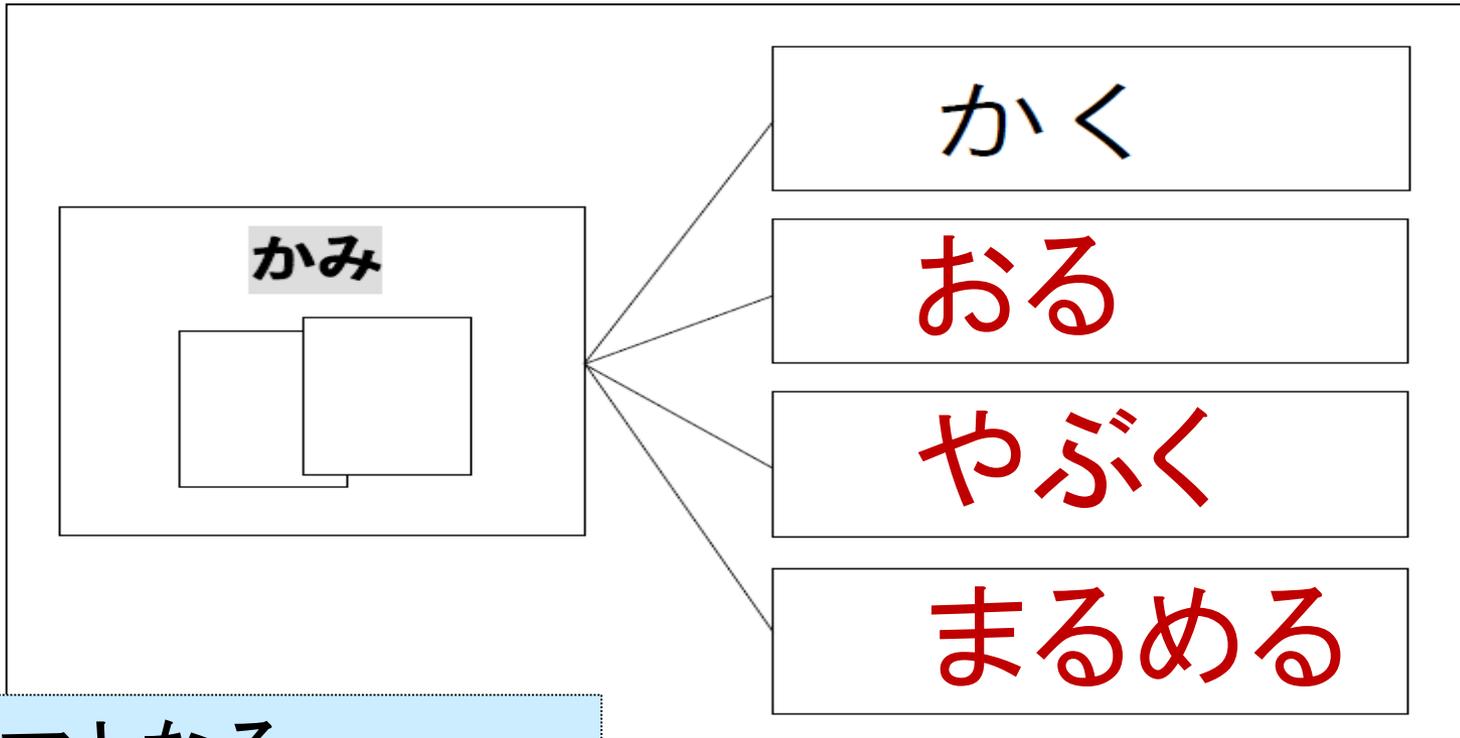
テーマとなる  
動詞の対象と  
なる事物を  
想起する

パソコン破く、って  
いわないよねー  
じゃあ、どんなも  
のなら言うかな～



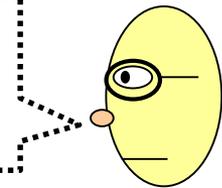
# ● 名詞と共起する動詞を想起する

どんなことを する？



テーマとなる  
名詞(事物)に対して  
する動作を想起する

かみは、どんな  
ことをするかな～



# ● 助詞 + 動詞と共起する名詞の想起問題

破く

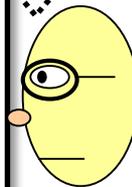
(かみ)を、破く

(手)で、破く

(ママ)が、破く

(ビリビリ)と、破く

どんな音が  
するかな～



動詞・助詞それぞれの条件を満たす語を想起する

# 100枚プリント第9集

## 連語練習ワーク



「(に)乗る」と共起する  
ことばを想起して連語を作る

連語練習 2

なに(に)のる？

( 月 日)



バス

に

のる



ふね

に

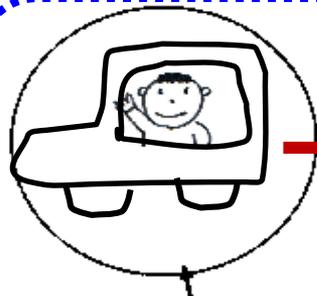
のる



ひこうき

に

のる



くるま

に

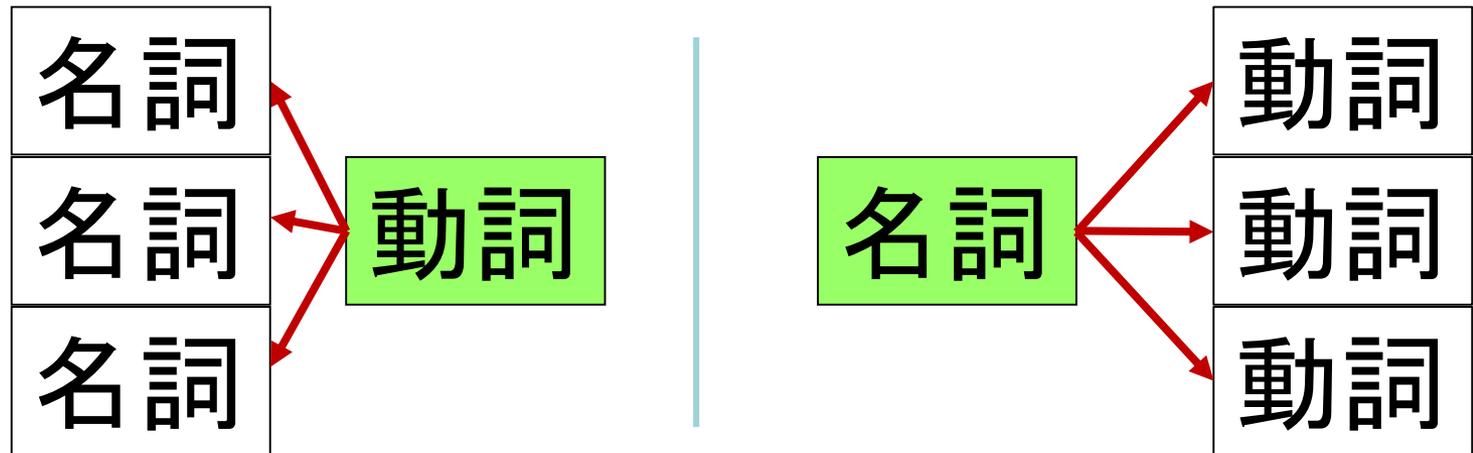
のる

のっているものを、かいてみよう！

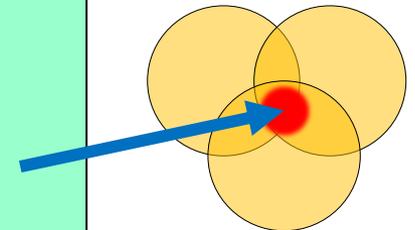
ことばのテーブル

# 共起語想起問題の目的・意義

共起率の高い単語を複数個、  
想起することにより



テーマとなる [動詞] の  
語義の抽出をはかる



これまであげた動詞の学習問題では  
おおむね、動詞が**基本形**(辞書形)で  
提示されていたが...

かく

やぶく

日常生活のコミュニケーションの中で、  
基本形で動詞が使われることは少ない

多くの場合、動詞のあとに何かついている



助動詞がついている

# 助動詞

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク

決シテ瞋ラズ イツモシヅカニワラツテ申ル

一日ニ玄米四合ト味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ ジブンヲカンジヨウニ入レズニ

ヨクミキキシ ワカリ ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ陰ノ小サナ萱ヅキノ小屋ニ申テ

東ニ病氣ノコドモアレバ行ツテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ツテソノ稻ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ツテコハガラナクテモイヘトイヒ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒドリノトキハ ナミダヲナガシ

サムサノナツハ オロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ クニモサレズ

サウイフモノニ ワタシハナリタイ

作家の井上ひさしさんは、この詩を  
**膠着語**としての日本語の特徴を  
最大限に生かした作品とされている  
『宮澤賢治に聞く』より

## 膠着語とは

単語がペタペタとくっつき繋がって行き  
結論が最後に来る \* 動詞が文の最後に来る

私は母と妹と、家の近くにできた、大きなスーパーの  
チラシ配りを、し**な**か**っ**た

英語なら・・ I **did**'nt **deliver** ~

そういうものに わたしはなり**たい**

**たい** 希望・願望の助動詞

ごはんを食べたい

公園に行きたい

「雨ニモ負ケズ」の詩は、最後の最後に  
それが作者の“願い”であることが  
明かされる

日本語は、文の末尾の助動詞が  
意味を決定づける

日本語で動詞を使うということは

助動詞を使うということに  
ほかならない

では、助動詞とは何だろうか？

助動詞は、動詞や形容詞について  
意味を加える働きをすることば

この助動詞により、さまざまな状況や  
気持ちを表すことができる

# 日本語の代表的な助動詞

ない

否定

\* 行かない

たい

希望

\* 行きたい

た

過去・完了

\* 行った

ます

丁寧

\* 行きます

ば

仮定

\* 行けば

# 現代語の助動詞

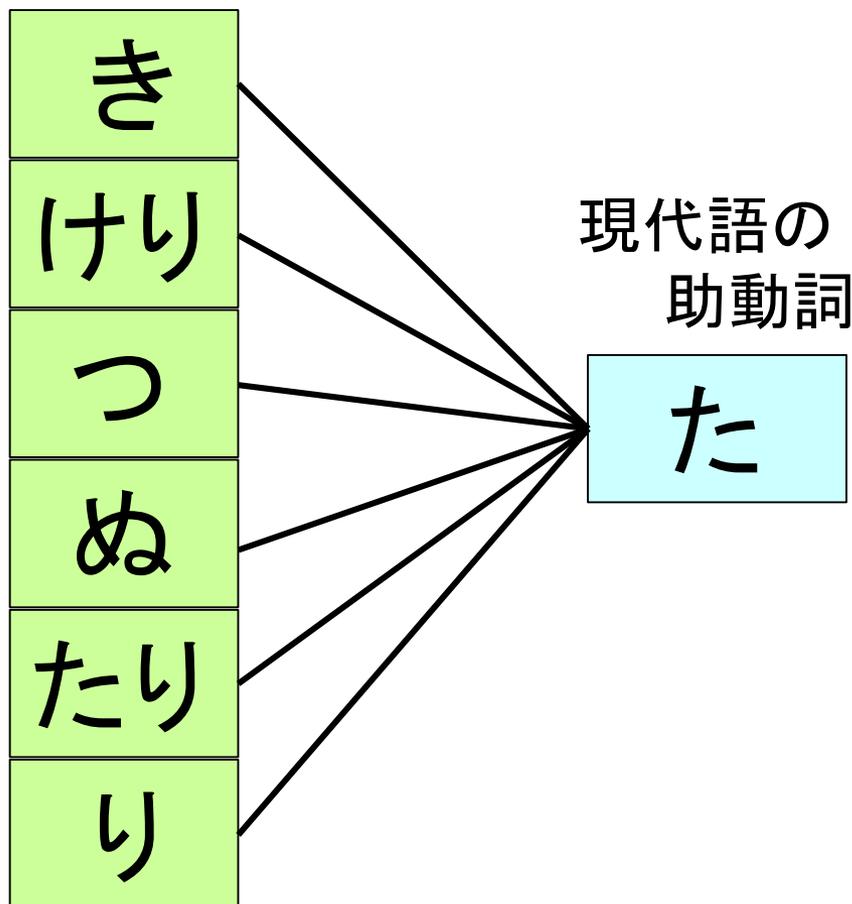
## た の用法

- ①完了を表す 「さっき、届いた」
- ②存続を表す 「手紙にかいた絵」
- ③確認を表す 「明日は給料日だった」
- ④決心を表す 「よし、決めた！」
- ⑤軽い命令を表す 「どいた、どいた」

さまざまな意味を持つ、

現代語の助動詞「た」は、

6つの古語の助動詞が統合されたもの



# 古語の完了の「つ」

見るべきほどのことは見**つ**

平家物語「壇ノ浦」より

口語訳すれば・・・

見なければならぬものは

**確かに見届けた**

「つ」=意志や強意を表現する

# 「た」に思うこと

さまざまな意味を負う、現在の「た」は難しい

その意味は文脈で判断しなければならない

発達障害の子どもにとって  
異なる意味を持つ助動詞を覚え使い分けるのと  
ひとつの助動詞の多様な意味を  
文脈から判断するのと  
どちらが易しいだろうか・・・

ところで..

助動詞には、もともとは基本的な動詞だった  
ものが、基本的であるが故に  
さまざまな動詞と結びつき

“助”動詞として、裏方に回ったものも多い

\* 古語の助動詞「つ」の元は、動詞「棄(う)つ」

さまざまな気持ちや、状況、時間の表現を、  
その1語でカバーできる助動詞は  
その成り立ちから見ても

コミュニケーションを支える重要なことば

だから

助動詞が使えない発達障害の子どもは  
コミュニケーションに大きなハンデを  
持っている

ぼくも  
あそびたい...



でも、ときどき

助動詞だけで受け答えをする

子どもがいる



…た！

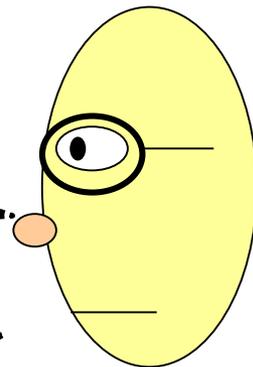
ん…ない

…たい！

お昼ごはん、食べた？

おうちで食べたの？

プリント、やる？



コミュニケーションが非常に取りやすい

そういう子どもを見ていると

ことばの学習においても

まず学ばせるべきものは

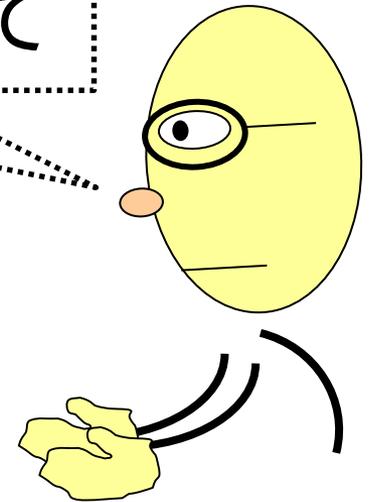
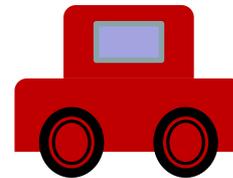
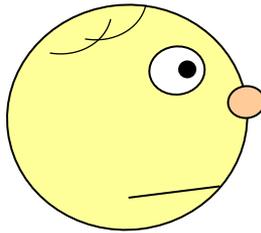
助動詞かもしれない

と思ってしまうが・・・

実は、学ばせている！

# チョーダイ

ほしい？ じゃ、**チョーダイ**して



その際、パチパチなど、手を合わせたり、打ち合せたりする身振りを見せ、模倣を促すことも多い

日常生活で、もっとも基本的で重要な  
「要求表現」の習得を目的としている

# チャードイとは何か

チャードイ（頂戴）

【名詞】①「もらう」の敬語（頂戴する）

②もらうことを促すこと（≒下さい）

チャードイは、②の用法で、  
要求を伝えることができる

➡ 動詞のような働きを持っている ≒want

ちなみに、「ください」は、動詞「下さる」の  
命令形「くだされ」に由来するもの

「チョーダイ」のほかに、  
よく要求表現として求めるのが

トツテ！（取って）



「取って」は、「取る」+助詞「て」、動詞「取る」の依頼形等、いくつかの考え方があ

「チョーダイ」や「トツテ」は、オールマイティに  
色々な場面で使える、ある意味の助動詞

語彙や文法が未熟な子どもに、相互交渉  
の表現として学ばせるのは最適と言える

また.. **取って** は、

● 日本語でよく使われる「て形」の原型

～てください

～て来る

～てもらおう

それから

● 「取って」は連用形による接続

連用形は、活用の中でも出現頻度が高いが音の変化(音便化)が多様で難しい

取**っ**て  
聞**い**て  
飲**ん**で

だから、日本語の様々な表現と音韻に繋がる

「取って」の学習は理にも適っている

しかし・・・

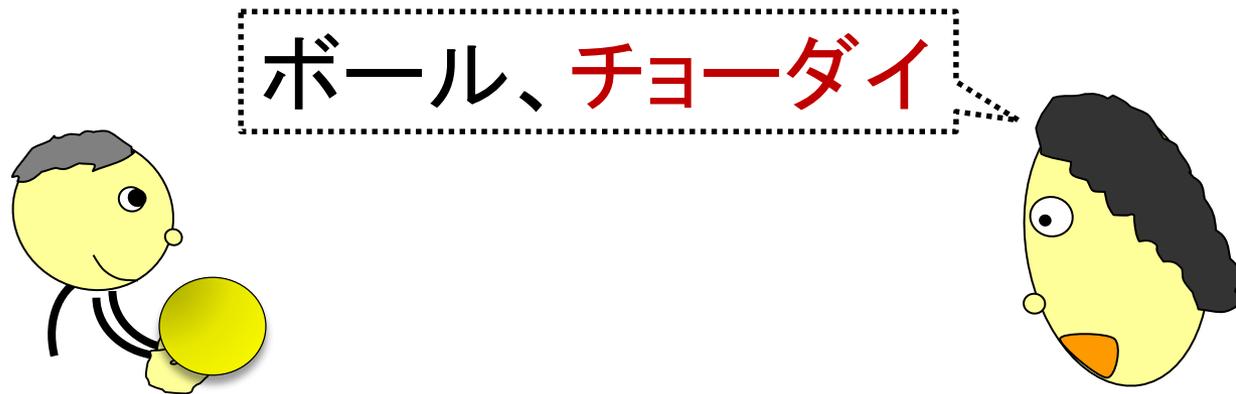
発達障害の子どもに、療育として行う  
「チョーダイ」や「取って！」の促しには  
ひっかかる所がある

たとえば・・・

ふつうの子育ての中で、  
「チョーダイ」や「とって！」を  
子どもに言わせることは  
多分、めったにない

では、子どもはどのように  
「チョーダイ」や「とって」に触れるのか

相手から、言われることばとして



だから最初は、相手からの要求

ところで、ことばを覚え、使うには

## ムードが不可欠

\* ムードとは、話し手の心的態度

願い、驚き、推測、命令、疑問 etc.



取られた...

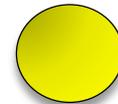
受身：被害のムード

チョコレートだったら

欲しい...  
願望のムード



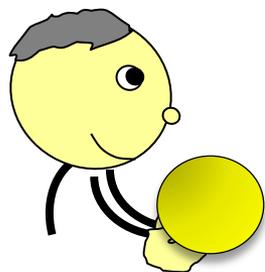
チョコレート



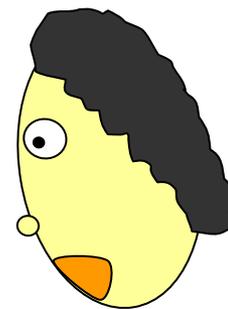
でも、初めに「チョーダイ」に出会う  
ときの子どもの抱く気持は  
“欲しい”ではないのでは..

ボール、チョーダイ

聞き手



話し手



あげたい

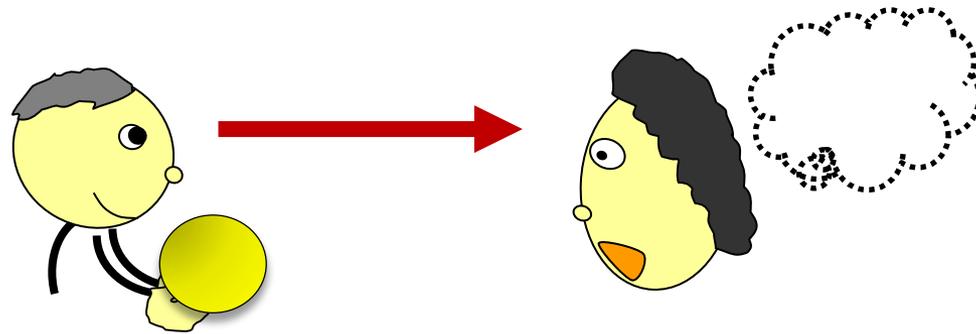
欲しい

あげよう

あげる

もらう

相手の心情を直感して、もしくは  
相手に自分を投影して



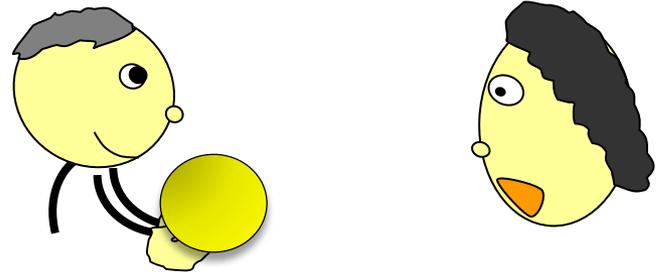
もらう＝“欲しい”という気持ちを  
感じている

という部分もあるとは思いますが・・・

子どもの直接の行為としては「あげる」

ということは..

最初は、**get**  
ではなく **give**



ことばには、きっと..

覚えるムード と 使うムード がある

日常生活で「チョーダイ」に触れるときの

覚えるムード には

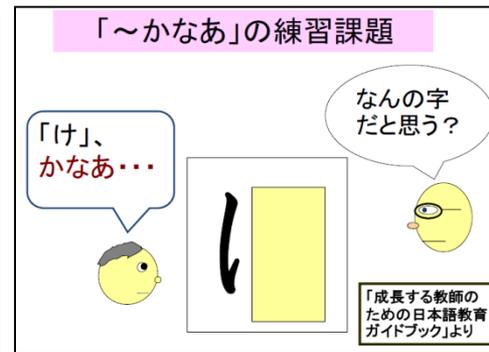
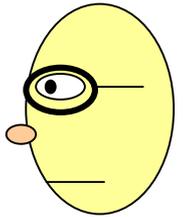
「あげたい」という気持ちが含まれている

自分はいままで、ことばの学習にあたって

使うムードばかりを

考えていたように思う

そのムードが自然に湧くような状況を  
設定して、そこでことばを使わせる



生きたことばを作るために

それは欠かせないことだが...

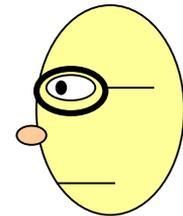
発達の初期段階での関わりにおいては

**覚えるムード** も重要なのではないか

「チョーダイ」でいえば



欲しいんなら言ってごらん



ではなく..

子どもに対して、まず大人から

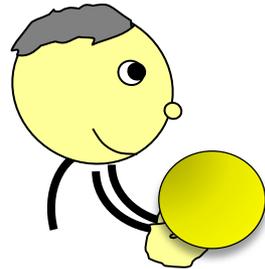
「チョーダイ」をたくさん投げかけることが  
大切なのでは

# 自然習得における「チョーダイ」のムード図

なんか言ってるぞ

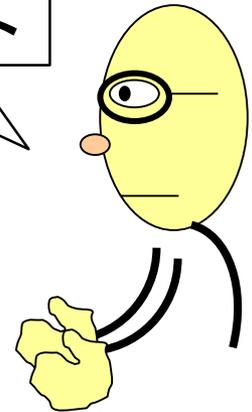
これ、欲しいみたい

じゃ、あげようか



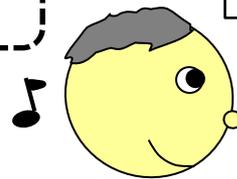
ボール、**チョーダイ**

**チョーダイ**よ



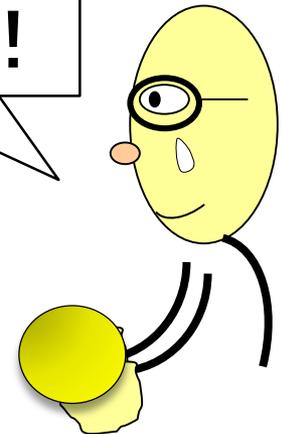
あげたら喜んでる...

あげて良かった...



ありがとう！

ほめられた  
認められた



「チョーダイ」の出発点は、  
「あげる」という意図

ことばは・・・

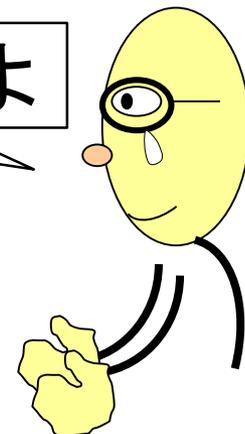
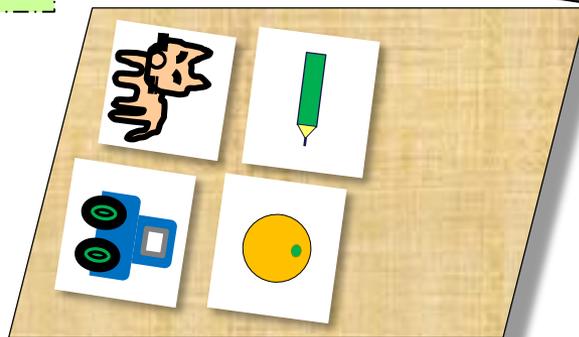
相手から、表現を求めるよりも  
まず、たくさん表現を受けてもらう

そして、ムードは・・・

相手から、気持ちや意図を求めるよりも  
まず、たくさんこちらの気持ちや意図を  
伝えて行く ことが、大切なのでは？

とってあげよう！

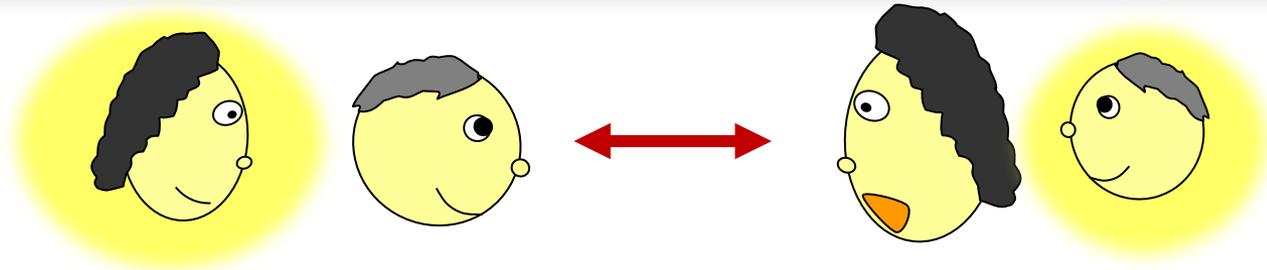
ミカン、チョーダイよ



人は他者との関わりの中で生きている

自分の中に相手があり

相手の中に自分がある



「チョーダイ」のような相互交渉の場合、  
その気持ち・意図と、ことばの表現は

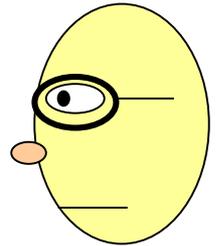
豊富な受け手の機会によって育まれる

そしてそれが、「あげもらい」や「受身・使役」などの  
高度な社会性を持つことばの習得に  
繋がって行くのではないか

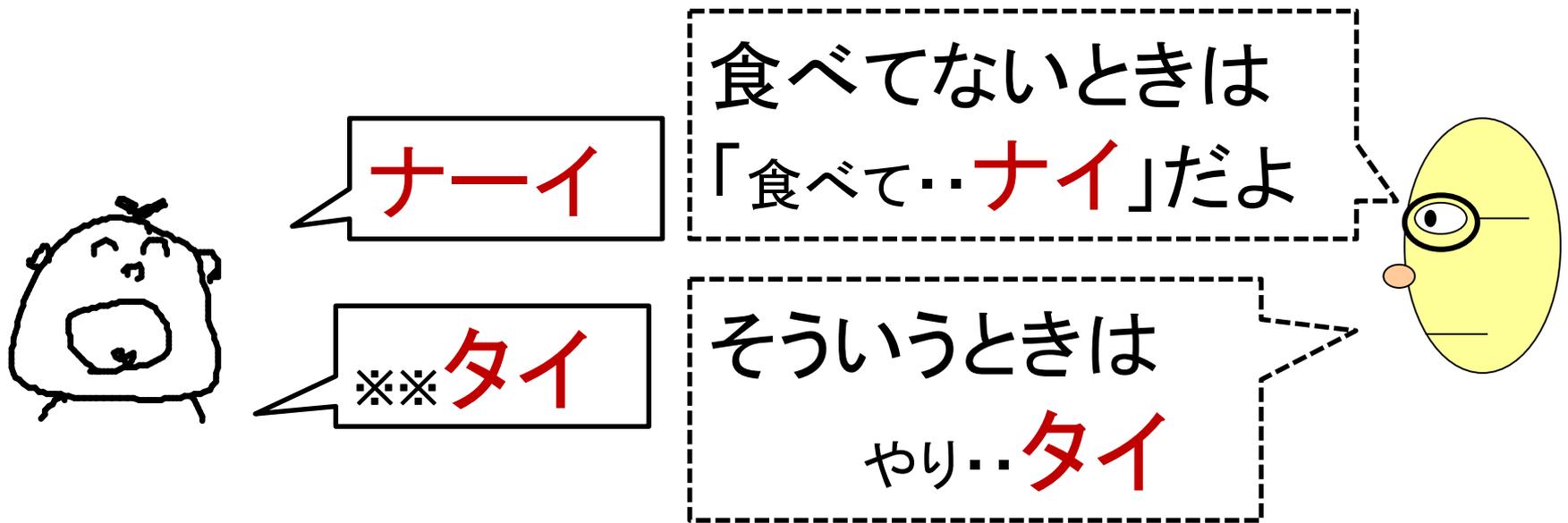
# 助動詞の学習例①

助動詞だけを取り出して語用的に使う

- 否定のときは「\*\*ナイ」
- 要望のときは「\*\*タイ」
- 過去のときは「\*\*タ」
- 要請のときは「\*\*テ」 など



# コミュニケーションの中での働きかけ



動詞も添えるが、助動詞部分を  
プロソディの大切さ 意識的に強調

会話の理解と伝達力の向上が狙い

しかしふつうは、もちろん

助動詞は動詞に付く形で用いられる

学習も **動詞＋助動詞** の形での表現が基本

ただ日本語の場合、  
動詞と助動詞をそのまま繋げ  
ても、ことばにならない

行かない

書きた

↓  
動詞の語尾の変化＝活用が必要

行かない

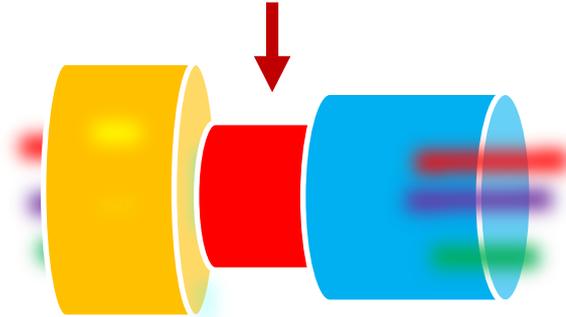
助動詞と動詞の活用は

セットで使う・学ぶ 必要がある

# コネクター

連結物・接合具

# コネクターとは



2つのものを結合させるための仕掛け

日本語においては、活用が、  
動詞と助動詞（もしくは助詞）を  
結合させるコネクター

それにしても・・・

現代の日本語の活用は

どのようにして出来たのだろうか？

その経緯は、はっきりとはわかっていないが

ことばとことばが、時代移り変わりの中で  
より無理なく、滑らかに続くように  
動詞の形が変化して行った

というプロセスは確かめられている

たとえば..

撥音 **ん** や、拗音 **きゃ**、**しゃ**<sub>etc</sub> は、  
動詞の語尾変化に伴う音便から生まれた

**ん** 飲みて→飲**ん**で    **っ** 行きて→行**っ**て

より滑らかに、という流れが新しい音を生んだ

活用は、日本語の音の成り立ちの基盤

活用を正しく身につけること



日本語を正しい音で話せることに繋がる

それでは・・・

自然習得の中で、子どもは  
どのようにして活用を身につけるのか

これも、いくつかの考えはあるが、  
はっきりとはわかっていない

ことばのテーブルに来てくれている子どもでも  
発達レベルが同程度なのに、  
活用が比較的使いこなせている子どもと  
使いこなせていない子どもがいる

今後は

そのような子どもの発達と、活用の習得との  
関連をもっと分析して行くことが必要

しかし今の問題として…

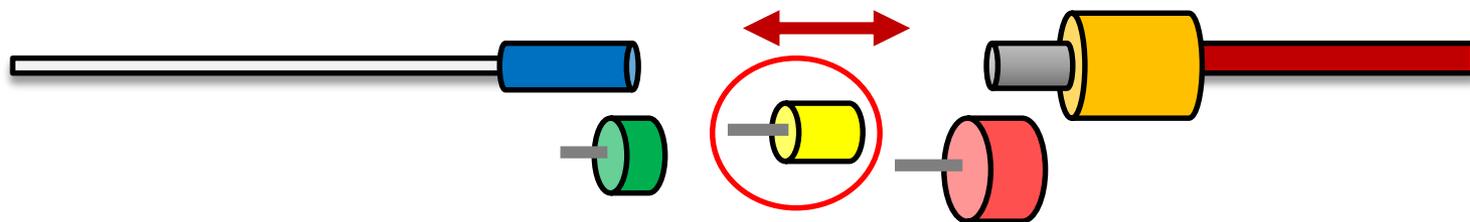
発達障害の子どもに  
どのような学習を行えば  
活用が身につくのか  
も、考えて行かなければならない

それを考える上でヒントになると思われるのが…

# ことばのコネクターの形成過程

たとえば、機械装置の場合

大きさや形が合わないものを繋げようとするとき  
既成品の色々なコネクターを試してみる



でも、ことばのコネクターの場合は

既成の接合具が用意されていたわけではない

ことばとことばを繋いでいるうちに、具合の良い形  
が粘土のように塑形され、また変化して行ったもの



よし丁度よくなったぞ

はじめに、ことばがある

ことば

ことば

ことばの接地

1つのことばを知る人間は、もう1つのことばの存在に導かれて、それに向って行く

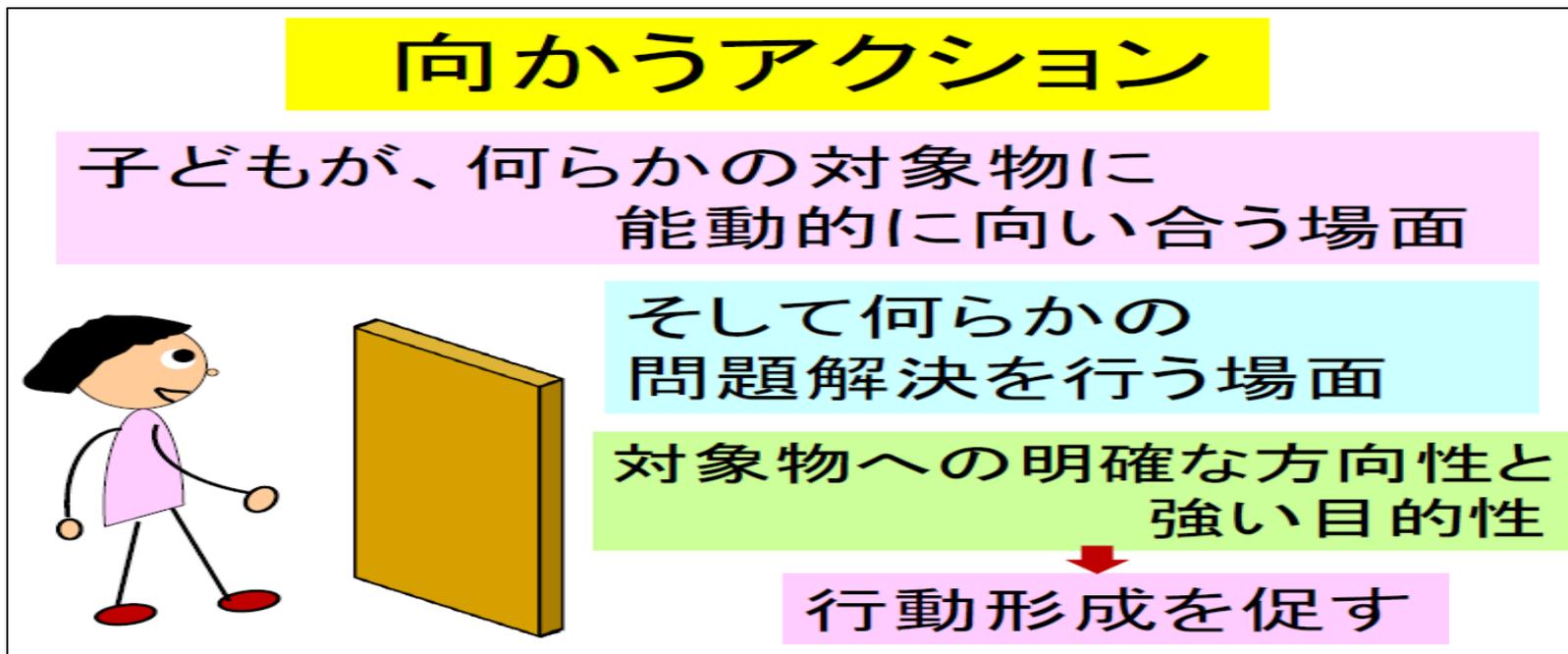
そして2つの意味を繋げたいという動機が

ことばのコネクターを生み出し変化させて行く

のではないだろうか

# 以前の学習会で 向うアクション という ことばを紹介したが

👉 第14回学習会「基礎的学習」より



ことばも、人間が、それをよりよく使おうと、  
向かい合い働きかけて行ったことによって  
時代や文化に適した形に変化してきた

そう考えると

子どもにはまず、ことば（動詞と助動詞）  
の存在に気づかせて

そして、不完全でもいいから

ことばとことばを繋ぐ、という  
アクションに向かわせる必要がある

初めは拙くても、その志向が、ことばの  
直感を育て、知識では決して学べない  
難解な活用を獲得させて行く

では、自然習得が困難な  
発達障害のこどもに対して

少しでもことばを繋いで行かせるために

どんな学習課題や学習教材が  
あるだろうか

また、それらを実施する上で、  
どのような学習上の工夫が  
考えられるだろうか

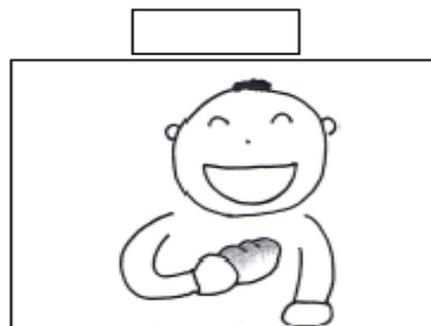


# 課題A: ~ない①

## 課題 I

絵を見てことばをかえてみよう

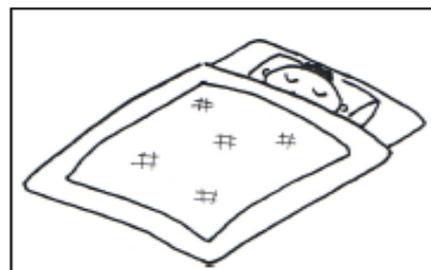
2つのイラストを対比しながらテーマとなる助動詞と動詞を連結する



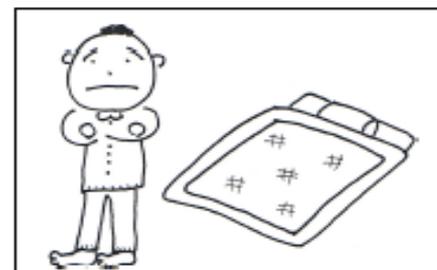
たべる



たべない



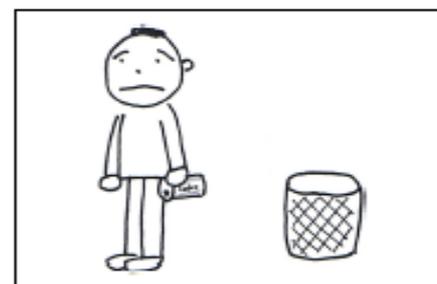
ねる



ねない



すてる



すてない

## 課題Ⅱ

いろいろなことばにかえてみよう

1つの動詞を、助動詞(ない・たい・た・う)と助詞(て)に連結する



かく

かか ない。

かき たい。

かい た。

かい て。

かこ う。

# 課題Ⅲ

# へんかんれんしゅう

さまざまな動詞を、1つの助動詞と連結する

①～⑩で活用の難易度が上がる

へんかん れんしゅう ❶

ない

① たべる → たべない

⑥ ねる → ねない

② みる → みない

⑦ だす → ださない

③ かく → かかない

⑧ あらう → あらわない

④ いく → いかない

⑨ くる → こない

⑤ のむ → のまない

⑩ する → しない

\*ことばを かんがえよう

⑪ ( よむ ) → ( よまない )

⑫ ( おす ) → ( おさない )

自作

# 活用練習ワークの学習上のポイント

## プロソディとムードの提示

活用練習ワークは、  
パターンプラクティス（型の学習）

意味はともかく

型を繰り返し、「言う・聞く・読む・書く」ことを通して、  
動詞＋助動詞の形や、活用による語尾変化の  
感覚をつかむことが目的

でも実際、子どもたちとこのワークを行っていると、  
プロソディーとムードの重要性に改めて気づかされる

たとえば..

勧誘の意味を持つ  
助動詞「う」を練習  
するときに

「行こう」「見よう」などの  
単語を、拳を突き上げて  
威勢よく、聞かせたり、  
言わせたりすると...

新しい動詞が、正しく  
活用され、助動詞とつな  
がることが多い

\* 活用練習ワーク: ~う



活用や助動詞が、比較的運用できている  
子どもを見ると、プロソディが割合に  
豊かであることが多い

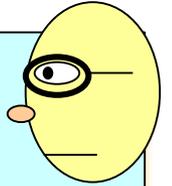
また・・

「行かない」「行くよ」「行けば？」「行こう」  
などの表現形を、唱えて見ると、  
アクセントもリズムも抑揚も  
それぞれに異なっていることがわかる

ただ音の違いだけでなく、プロソディの支援を  
受けて、子どもは、きっと活用を学んでいる

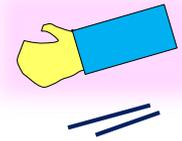
# 生活の中の動詞の学習③: 助動詞と活用

プロソディーやボディーアクションを  
豊かに使おう



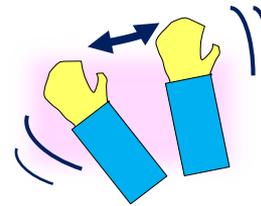
●「切<sup>↑</sup>って」「飲<sup>↑</sup>んで」

\*「て」の所で、「どうぞ！」のように手を前に差し出す



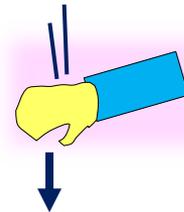
●「食<sup>→</sup>べな<sup>→</sup>ーい」「行<sup>→</sup>かな<sup>→</sup>ーい」

\*「ない」の所で、手を左右に振る



●「書<sup>↓</sup>いた」「読<sup>↓</sup>んだ」

\*「た」の所で、手を下に向かって押す



～れば?  
～ます  
～ろ! etc.  
それぞれの  
プロソディーと  
アクションで

# 生活の中での動詞の学習について

## 日常のコミュニケーション

状況があり、文脈があり、  
ムード(心情)があり、動機と意欲がある

ことばの学習のもっとも大切な場

● 生活動作の言語化

● 会話での援助

● エラー訂正

# ●生活動作の言語化

## まずは経験



直接経験



間接経験



したこと・見たことを、ことばにする



バス、**キタ**ね

ロケット、**トンデル**よ

電車、**ノッタ**ね。**ノッテ**楽しかったね



★動詞の形を変えて提示すると、  
活用に対する気づきを高められる

# ● 会話での援助

## ■ 文を拡げる



ケーキ

ケーキ買う？



## ■ 文法を加える



フク、キタ

服を着たね



イク？

行くよ。行こうね。



## ●エラー訂正

文法の誤用(もしくは脱落)と比べて  
単語の誤用と遭遇する機会は少ない

単語の誤用場面は、貴重な、学習機会

積極的・意識的に、どんどん直す



なげたよ

ころがした、だよ



(注)ただし〇×に  
ならないように



# 動詞の学習教材⑤

## 映像を素材とした動詞学習

### 10秒映画

語りの学習を目的として  
制作した教材だが

語り＝動詞学習でもある

映像でなければ、表現でき  
ない動作や状態の言語化

文脈のある中で、つながり  
を持った動詞の使用

などを動詞学習の狙いとしている



何か × 何でも の学び

最近、ITが急速に進歩して

ビッグデータと呼ばれる大量情報から

さまざまなものが読み取れるようになっている

## ビッグデータ

データ  
A

データ  
B

データ  
C

データ  
D

たとえばデータAとデータCを  
関連づけて分析したら  
ある出来事についての  
原因がつきとめられた！

データ  
A

×

データ  
C

しかし・・・

情報が多くなればなるほど、どの情報と情報を  
関連づけければ良いのかが、難しくなる

そういった場合

2つのうちの1つを固定してみたらどうだろう？

変数X × 変数X ではなく



定数A × 変数X

最近自分は、学習会の準備の必要に迫られて

この **定数A** × **変数X** という方式 で

無意識に何かを考えていることに気がついた

学習会には毎回テーマがあるが、準備をしている  
数カ月は、そのテーマのことばかり考えている

すると、テーマと直接関係のない何かを見たり、  
何かを聞いたり、何かをしたりしていても

それを無意識に、テーマと関連づけている  
自分に気づく

つまり 定数A × 変数X は、

何か × 何でも

「何か」とは、いま考えている「テーマ」であり  
「何でも」とは生活のすべて

すると…

まったく無関係と思われるもののの中に  
テーマとの関連性を見出して  
自分にとって貴重と思われる  
ヒントが得られることがある

何か × 何でも の学びは

勝手な思い込みや、  
ひとりよがりにも陥りやすいが

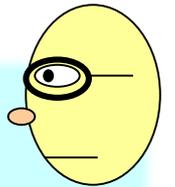
遠く離れていると思っていた

2つのものの取り合わせが、

思いがけない気づきや

イメージの広がりを

もたらしてくれるように思う



## 【参考・引用図書】

- 「レキシコンの構築」 岩波書店
- 「ことばの発達の謎を解く」 ちくまプリマー新書
- 「ことばの誕生」 日本放送出版協会
- 「日本語の文法を考える」 岩波新書
- 「Eゲイト英和辞典」 ベネッセコーポレーション
- 「基礎日本語辞典」 角川書店
- 「宮澤賢治に聞く」 文藝春秋 ○「宮沢賢治詩集」 各社
- 「日本語の歴史」岩波新書 ○「はじめて読む日本語の歴史」ベレ出版
- 「日本語動詞の語相」 ひつじ書房
- 「動詞の意味的な文法研究」 明治書院
- 「集合知とは何か」「ビッグデータと人工知能」 中公新書
- 「平家物語」 各社
- 「俳句で楽しく文語文法」 角川学芸出版
- 「ねじとねじ回し」 早川書房

\*「日本の子どもの初期の語彙発達」 言語研究 132号(2007)